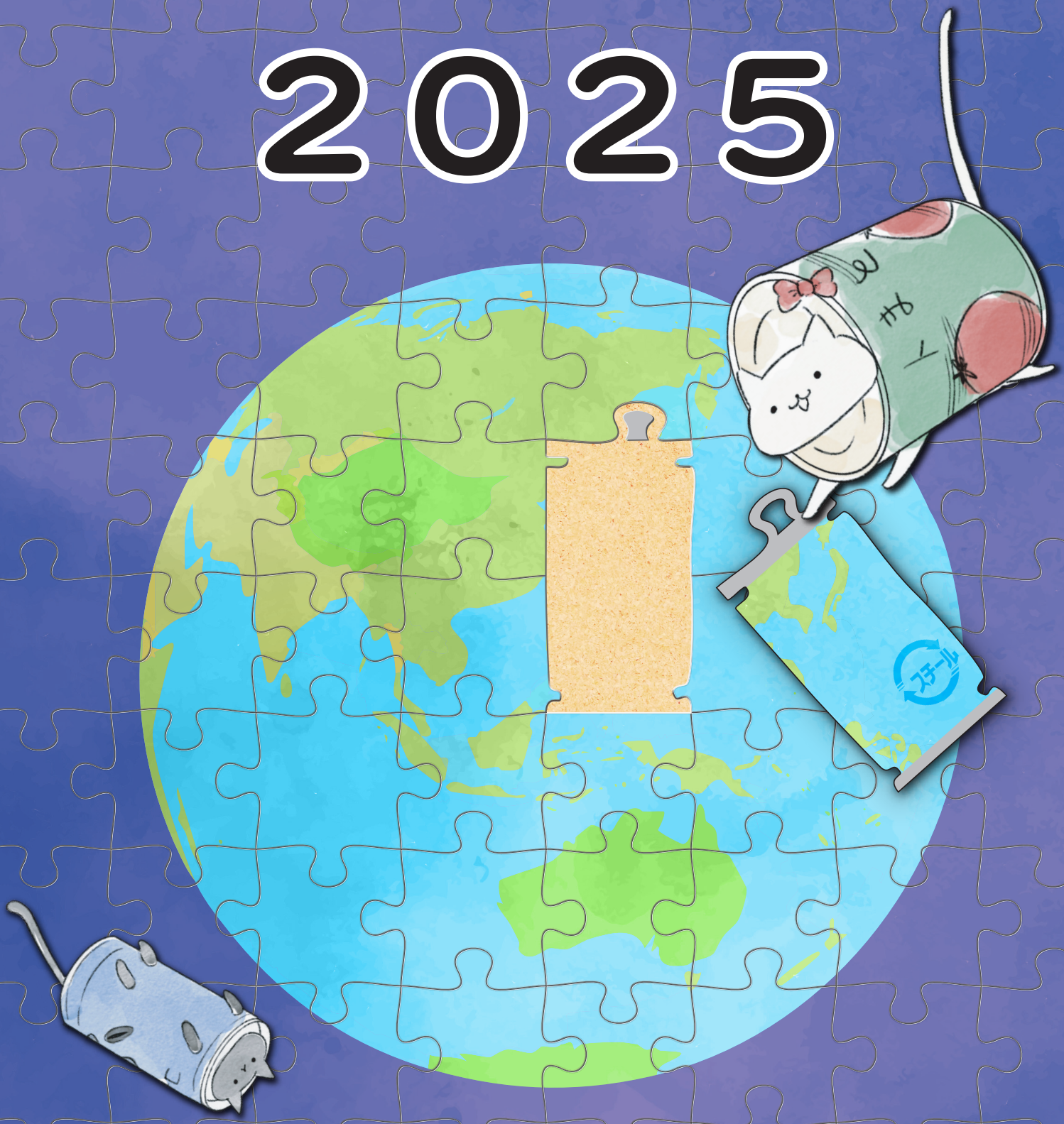
スチール缶　リサイクル
年次レポート
２０２５



JAPAN STEEL CAN RECYCLING ASSOCIATION
スチール缶リサイクル協会

目次

第1章

1. スチール缶と生産缶数 ―― 1
2. スチール缶のリサイクルルート ―― 2
3. スチール缶のリサイクル率 ―― 3

第2章

1. スチール缶スクラップの購入量
   コラム. スチール缶のリデュースについて ―― 4
   鉄スクラップ検収統一規格 ―― 5
2. 鉄スクラップの再利用 ―― 6
3. 鉄スクラップの価格 ―― 7

レポート1

国内鉄スクラップ価格、需給均衡し概ね様子見横ばい
～H2価格は4万円前後で小幅な値動きに～ ―― 8

第3章

スチール缶リサイクルの実態
～自治体アンケートより～ ―― 9

第4章

店頭回収の実態
～自治体アンケートより～ ―― 16

レポート2

店頭回収実地調査報告
～自治体とスーパーマーケットの連携事例～ ―― 20

資料編

1. スチール缶リサイクル率の算出方法 ―― 21
2. スチール缶リサイクル協会の活動報告 ―― 22
3. 製鉄工場（電炉・高炉・鋳物）・ペレット工場の分布 ―― 24

協会挨拶

平素よりスチール缶リサイクル協会の活動に、ご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。当協会は、スチール缶の再資源化の推進、スチール缶の散乱防止と地域美化の推進、そしてその普及啓発活動に取り組んでいます。一つの指標としているスチール缶リサイクル率は、2024 年 94.4% と過去最高の値になりました。これも消費者の分別排出から始まって関係する皆さまのご尽力のおかげと感謝いたします。

この「スチール缶リサイクル年次レポート」はスチール（鉄）の資源化事業推進の一助となるよう、自治体の資源化の状況やスクラップの受け皿メーカー、スクラップ市場の動向などを毎年とりまとめ、今年で発行 30 年目を迎えます。これからもサーキュラーエコノミーの実現に向け、活動を推進してまいりますので、引き続きご理解、ご協力をお願い申し上げます。

【注記】本誌に記載の数値は、端数処理を行っているため合計値が合わない場合があります。ご了承ください。

第１章

1.　スチール缶と生産缶数

●スチール缶は、缶ジュースや缶コーヒーなどの飲料缶のほか、みかんや魚の缶詰などの食料缶、のり・お茶・クッキーなどの一般缶、食糧用18リットル缶（一斗缶）をさします。

●飲料缶と食料缶をあわせた生産量は、2024年で141千トンであり、スチール缶の生産量の約65％を占めています。

●2024年に作られた飲料用スチール缶は約37億缶、食料用スチール缶は約6億缶、合計では約42億缶でした。

飲料缶・食料缶あわせて 141 千トン

一般缶 55 千トン

18 リットル缶（食糧用）21 千トン

トン数は 2024 年経済産業省統計データおよび全国 18 リットル缶工業組合連合会データより

飲料缶および食料缶生産缶数　（推定数：スチール缶リサイクル協会調べ）

〔単位：百万缶〕

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年
飲料缶	7,184	6,814	6,433	5,740	5,277	4,627	4,442	4,087	3,998	3,650
食料缶	872	815	790	786	772	766	736	715	639	579
合計	8,056	7,629	7,223	6,526	6,049	5,393	5,178	4,802	4,637	4,229

スチール缶の表示マーク

飲料缶は資源有効利用促進法の規定に基づいて材質を示すマークが定められています。

また、一般缶（のり・お茶・クッキーなどの缶）については全日本一般缶工業団体連合会が、18リットル缶については全国18リットル缶工業組合連合会が、消費者が分別排出する時に「スチール缶」であることがわかるようにマークを制定・管理しています。

（飲料缶マーク）　（一般缶マーク）　（18リットル缶マーク）

スチール缶の主成分

飲料缶用鋼板は耐食性、加工性、強度等に優れた高級鋼材です。

スチール缶スクラップは国内の製鉄所で溶解され、自動車・レール・家電・建材・スチール缶など、さまざまな鉄製品にリサイクルされています。

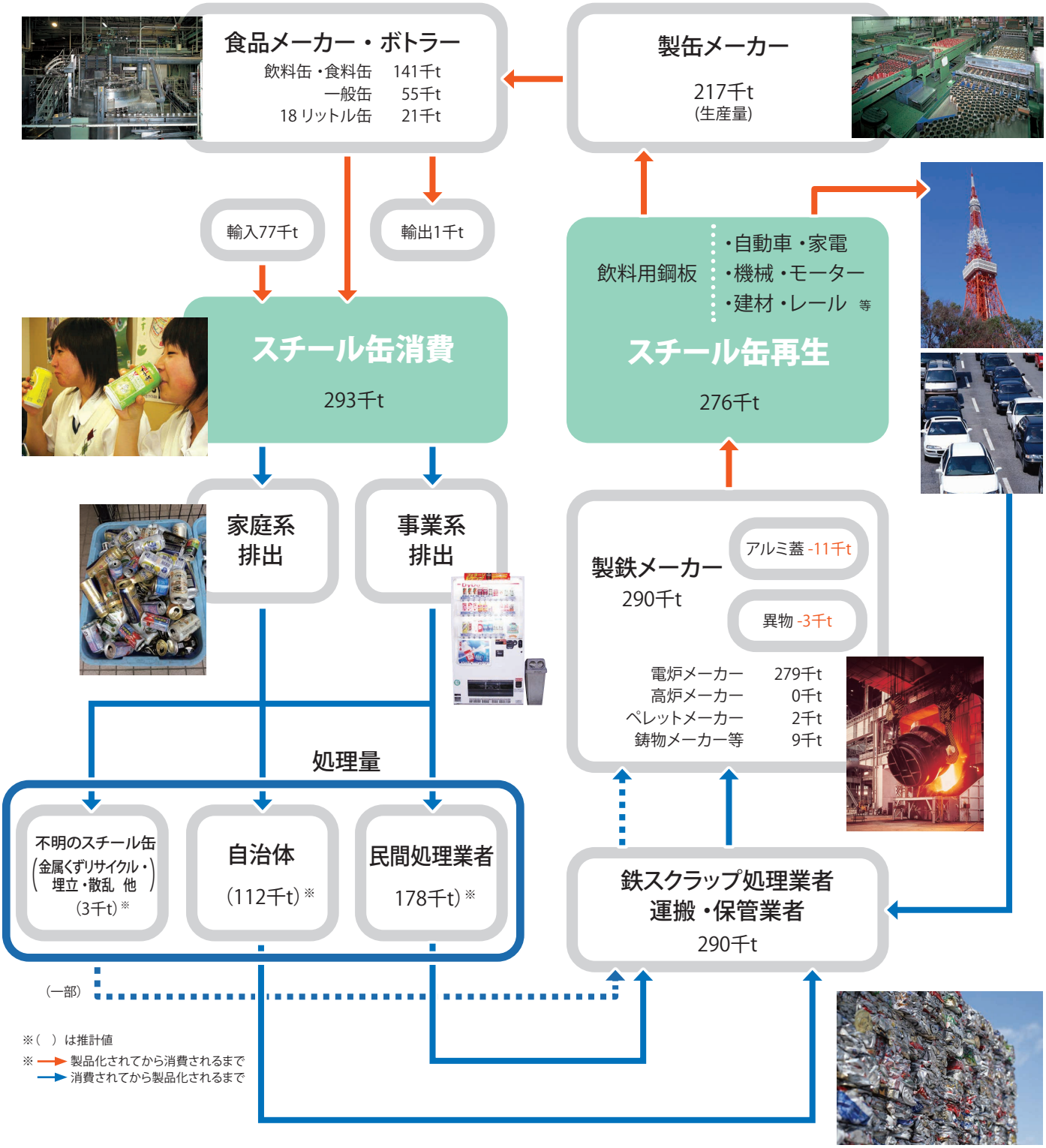
鋼材 （　）は規格記号	炭素含有量（%）	主要合金成分（%）
飲料缶用鋼板 (SPTE T-4 CA)	鉄 99.9 + 炭素 0.02 ～ 0.06	アルミ 0.005 マンガン 0.03
自動車用鋼板 (SPCE)	鉄 99.99 + 炭素 0.005 ～ 0.01	チタン 0.0001
建材用鋼板 (SPCC)	鉄 99.8 + 炭素 0.1	マンガン 0.5 以下
線材 (SWRM)	鉄 98 + 炭素 0.1 ～ 0.4	マンガン 0.03 ～ 1.5
H 形鋼 (SG415H)	鉄 98 + 炭素 0.1 ～ 0.4	マンガン 0.03 ～ 1.5 クロム 0.85 ～ 1.25

2. スチール缶のリサイクルルート

●消費された飲料缶などのスチール缶は、自治体の分別収集や不燃ごみ収集ルート、または自動販売機や事業所・工場などの事業系回収ルートによって集められます。いずれの場合も、資源化施設で磁選機によってスチール缶だけを選別し、運びやすいようにプレスし、ブロック状などに加工されます。

●鉄スクラップはスクラップ処理業者等を経由し、製鉄メーカー（おもに電炉メーカー、高炉メーカー、鋳物メーカー）が原料として購入します。建築用の鋼材、自動車用鋼板、冷蔵庫や洗濯機、スチール缶用の鋼板など様々なものに再生されています。

〔単位：千 t/ 年〕



第１章

3. スチール缶のリサイクル率

2024年度のスチール缶リサイクル率は94.4%

2011年度に初めて90%を超えて以来14年間にわたり、90%以上が継続しています。2021年度から始まり2025年度を目標年度とする「自主行動計画2025」のリサイクルの数値目標「93%以上維持」を達成しました。

スチール缶リサイクル率

$$\frac{\text{再資源化重量 } 276{,}396 \text{ トン}}{\text{消費重量 } 292{,}822 \text{ トン}} = 94.4\%$$

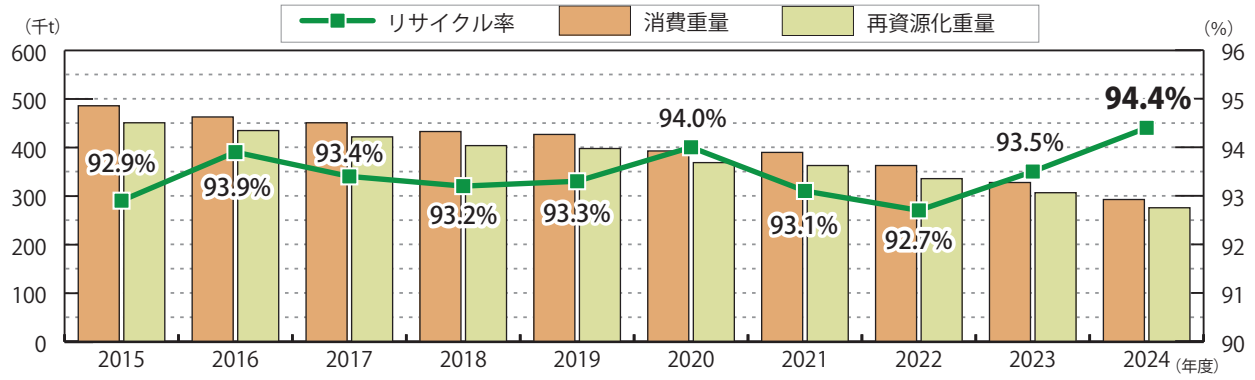
スチール缶リサイクル率が高い要因

①2024年の世界の粗鋼生産量は前年比1.0%減の約18億8,458万3千トン（速報）となりました。ロシア・ウクライナ、中東情勢など世界経済は引き続き不透明さがあり、中国経済の減速などもあって、鋼材需要は伸び悩み、世界粗鋼生産量は2020年以来の低水準となりました。しかし、インドなど生産好調な国もあり、2018年から7年連続で18億トン超の高い生産水準を維持しています。

②住民の協力による分別排出の徹底、自治体や事業系の分別収集システムの完備、資源化センターやスクラップ加工業者の選別・加工精度の向上などにより、スチール缶スクラップの品質は年々向上しています。スチール缶スクラップは高品質で有用な製鋼原料として、引き続き高い評価を得ています。

③缶スクラップの一部がシュレッダー処理されて、缶スクラップ以外の規格として流通したことにより、2008年度からシュレッダー処理された量の一部を把握しています。

直近10 年間のスチール缶リサイクル率の推移



素材別リサイクル率・回収率

素材	率	指標	算出方法
スチール缶	94.4 (2024年度)	リサイクル率	国内スチール缶再資源化重量 / スチール缶消費重量 スチール缶は何にでも何度でもさまざまな鉄鋼製品に生まれ変わるクローズドループリサイクルです ※スチール缶 = 飲料缶 + 食料缶 + 一般缶 +18 リットル缶の一部
ガラスびん	78.5 (2024年度)	リサイクル率	再商品化量 / 国内出荷量
ペットボトル	85.0 (2023年度)	リサイクル率	リサイクル量 / 販売量
紙製容器包装	22.4 (2023年度)	回収率	回収量 / 業種全体の排出見込み量
プラスチック容器包装	69.5 (2023年度)	リサイクル率	（再商品化量 + 自主回収量）/（市町村回収量 + 自主回収量）
アルミ缶	99.8 (2024年度)	リサイクル率	再生利用重量（国内分＋輸出分）/ 消費重量
紙パック	38.8 (2023年度)	回収率	国内紙パック回収量 / 飲料用紙パック原紙使用量（損紙・古紙を含む）
段ボール	97.8 (2023年度)	回収率	段ボール古紙実質回収量 / 段ボール原紙消費量＋輸出入製品に付随する段ボールの入超量

各団体ホームページより

第２章

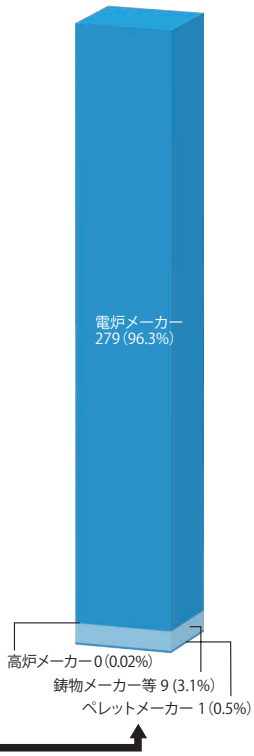
1. スチール缶スクラップの購入量

地域別・業種別スチール缶スクラップ購入量

（千t/年）

	2023年度					2024年度					
	プレス	ｼｭﾚｯﾀﾞｰ	その他	計(B)	%	プレス	ｼｭﾚｯﾀﾞｰ	その他	計(A)	%	(A-B)
北海道	7	0	2	9	2.8%	8	0	1	9	3.1%	0
東北	13	0	5	19	6.0%	11	0	5	16	5.5%	-3
関東	82	23	18	123	38.2%	75	19	6	100	34.4%	-23
北陸	1	4	0	5	1.6%	1	4	1	5	1.9%	0
東海	30	4	5	39	12.0%	24	7	7	37	12.8%	-2
近畿	73	4	5	81	25.3%	78	3	4	85	29.2%	3
中国・四国	14	2	1	17	5.2%	9	1	0	11	3.7%	-6
九州・沖縄	12	11	6	29	8.9%	9	12	6	27	9.4%	-1
計	232	46	43	322	100.0%	214	46	29	290	100.0%	-32
電炉メーカー	225	43	41	310	96.2%	208	44	28	279	96.3%	-30
高炉メーカー	0	0	0	0	0.01%	0	0.1	0	0	0.02%	0
鋳物メーカー等	7	3	0	10	3.0%	6	3	0	9	3.1%	-1
ペレットメーカー	0	0	2	2	0.7%	0	0	1	1	0.5%	-1
計	232	46	43	322	100.0%	214	46	29	290	100.0%	-32

業種別スチール缶スクラップの購入量（千t）



COLUMN コラム

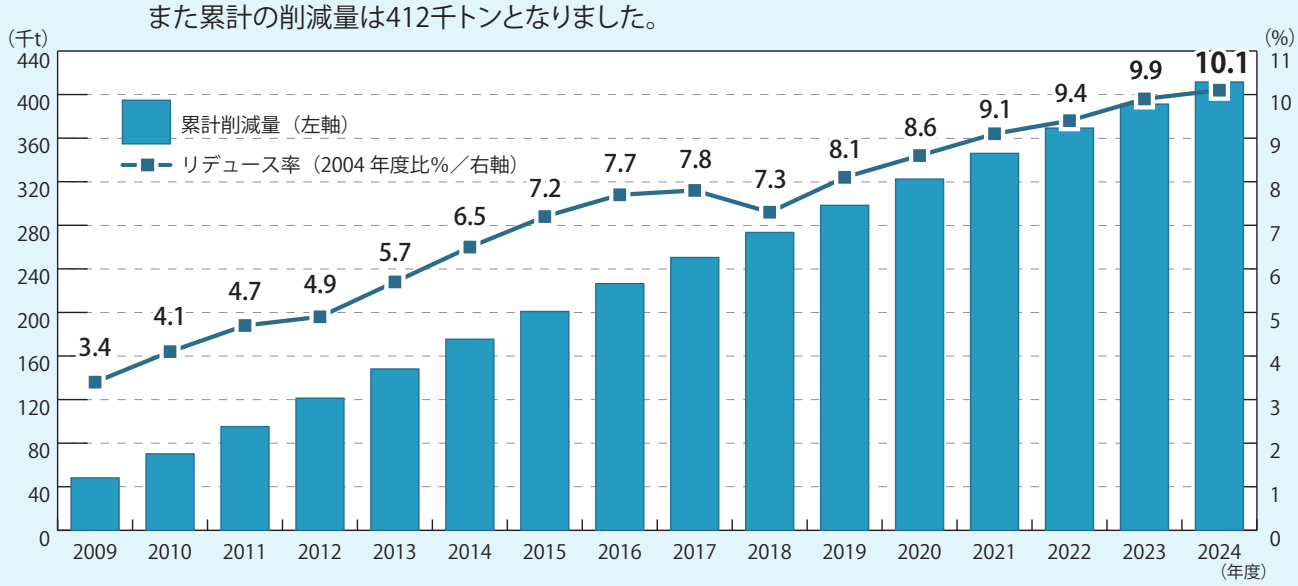
スチール缶のリデュースについて

日本製缶協会が2006年6月に立ち上げた「スチール缶軽量化推進委員会」にて、2004年度を基準年度とした軽量化目標を掲げた自主行動計画を策定し、業界挙げて軽量化に取り組んできました。

この結果、第1次自主行動計画（2006年度～2010年度）、第2次自主行動計画（2011年度～2015年度）、自主行動計画2020（2016年度～2020年度）ともそれぞれ目標を前倒しにて達成しました。

2021年度～2025年度を計画期間とした自主行動計画2025では「2004年度比で2025年度に1缶当たり平均重量で9%以上の軽量化」を目標とし、継続して取り組んだ結果、2024年度のリデュース率は10.1%となり目標を達成しています。

また累計の削減量は412千トンとなりました。



鉄スクラップ検収統一規格

検収統一規格とは、鉄スクラップの流通において使用される基準で、品質、等級などで設定されている。現在は、以下の規格が日本全国で利用されており基準を満たしたものが「鉄スクラップ製品」となる。ただし、事業所によって製鋼設備能力、生産品種などが異なるため、以下の規格を基本としつつ、製鋼メーカーが独自の検収規格を用いている場合もある。

分類	品種	等級	寸法 (mm)		単重 (kg)	注記
			厚さ	幅または高さ×高さ		
炭素鋼スクラップ	ヘビー	ギロチンシャー、ガス溶断、重機などでサイジングしたもので、厚み、寸法、単重により以下に区分する。				
		HS	6以上	500 以下 x 700 以下	600 以下	
		H1	6以上	500 以下 x 1200 以下	1000 以下	
		H2	3以上～6未満	500 以下 x 1200 以下	1000 以下	
		H3	1以上～3未満	500 以下 x 1200 以下	1000 以下	
		H4	1未満	500 以下 x 1200 以下	1000 以下	
	プレス	主として鋼板加工製品を母材にしてプレス機により圧縮成形した直方体状のもので、母材により以下に区分する。				
		A	3辺の総和1800 以下、最大辺800 以下			主に使用済み自動車をプレスしたもの
		B	3辺の総和1800 以下、最大辺800 以下			A プレス、C プレスでないもの
		C	上限寸法は同上、下限は3辺総和600 以上			飲料缶をプレスしたもの
	シュレッダー	主として鋼板加工製品を母材にしてシュレッダー機により破砕したあと磁気選別機で選別された鉄スクラップで、母材により以下に区分する。				
		A				主に使用済み自動車を破砕したもの
		B				上記以外の混合品
	新段	鋼板加工製品を製造する際に発生する切りくず及び打ち抜きくずで、形状、酸化の程度により以下に区分する。				
		シュレッダー				新断をシュレッダー処理したもの
		プレス A	3辺の総和 1800 以下、最大辺 800 以下			表面処理していない薄鋼板で酸化していないもの
		プレス B	3辺の総和 1800 以下、最大辺 800 以下			多少酸化している薄鋼板又は鋼材材質に悪影響を及ぼさない表面処理鋼板
		バラ A	幅又は高さ 500 以下 x 長さ 1200 以下			表面処理していない薄鋼板で酸化していないもの
		バラ B	幅又は高さ 500 以下 x 長さ 1200 以下			多少酸化している薄鋼板又は鋼材材質に悪影響を及ぼさない表面処理鋼板
	鋼ダライ粉	ネジ、機械部品などを製作する際に発生する切削くず及び切り粉で、形状、酸化の程度により以下に区分する。				
		A				普通鋼切削くずで酸化の少ないもの、チップ状のもの
		B				普通鋼切削くずで多少酸化しているもの、パーマ状のもの
		プレス	3辺の総和 1800 以下、最大辺 800 以下			普通鋼切削くずで酸化の少ないものをプレスしたもの
銑(せん)スクラップ	故銑(こせん)	使用済み鋳物製品を細かく打ち砕いたブロック状のもので、母材により以下に区分する。				
		A	1 辺 1200 以下		1000 以下	機械銑、道具銑等の上銑、モーターブロック完全解体
		B	1 辺 1200 以下		1000 以下	並銑、モーターブロック未解体（油ぬきもの）
	銑(せん)ダライ粉	鋳物製品を生産する際に発生する切削くずで、酸化の程度により以下に区分する。				
		A				鋳物切削くずで酸化の少ないもの
		B				多少酸化した鋳物切削くず

（一社）日本鉄源協会 2008 年 6 月改訂

2. 鉄スクラップの再利用

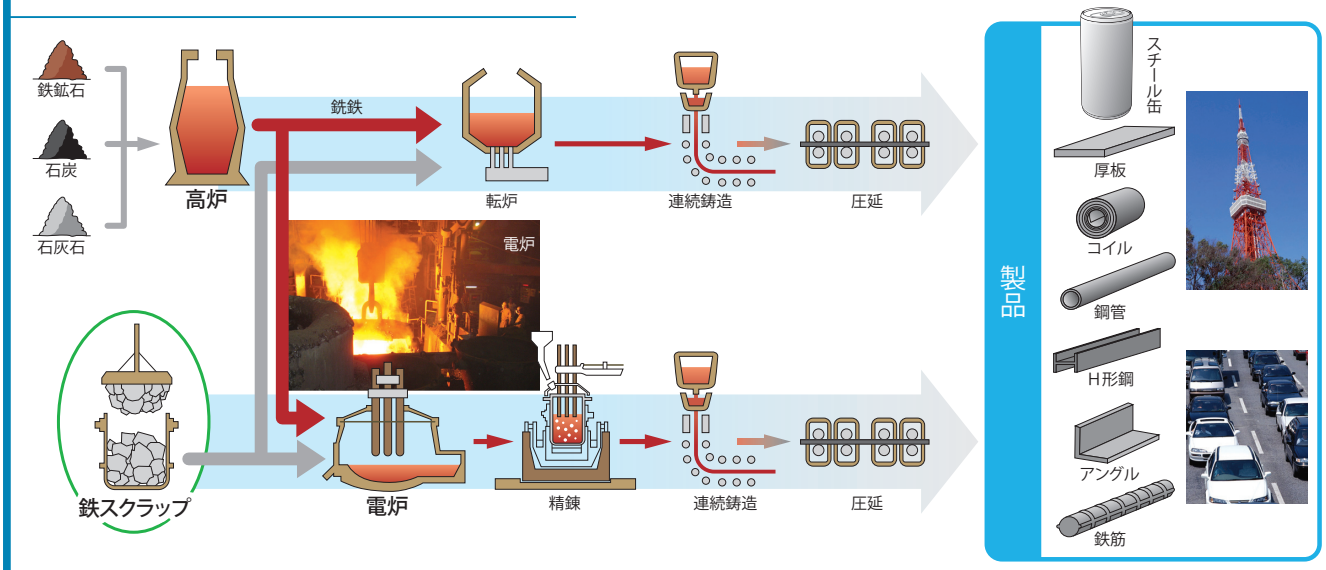
●2024年度、国内で約8,295万トンの鉄が生産されました。鉄鋼の製造方法には、「高炉法」と「電炉法」があります。国内の鉄鋼生産シェアは、高炉が74.0%、電炉が26.0%という比率でした。

●建設、自動車、機械、缶容器などとして使われ排出された鉄は、再び鉄スクラップとして、鉄鋼メーカー（高炉、電炉、鋳物メーカー等）で再生されます。

●国内市場で取引されている鉄スクラップ（市中スクラップ）は2024年度が2,336万トン（前年度に比べて137万トンの減少）。これ以外に2024年度の輸出量は680万トンでした（前年度比48万トンの減少）。

	製造方法	企業・工場数
高炉メーカー	高炉で鉄鉱石を還元してつくった銑鉄（せんてつ）を転炉に入れる際に、鉄スクラップを挿入して、鋼を製造する。	3社 13工場
電炉メーカー等	電炉（電極の放電熱で鉄屑を溶解する炉）等で鉄スクラップを溶解し、鋼等を製造する。	43社 63工場

鋼材の製造プロセスと鉄スクラップの再利用



鉄スクラップの発生量（2024 年度）

注：国内市中スクラップ（国内製鋼所向け）の量は加工スクラップと老廃スクラップの合計に過欠補正値を加えたもの

出所：（一社）日本鉄源協会

用語説明

高炉	銑鉄（せんてつ）を作るための炉で、鉄鉱石、コークス（石炭）、石灰石を投入する
転炉	鋼をつくるための炉で、溶けた銑鉄を入れて、酸素を吹き込む。軸を中心に360 度回転できる構造をもつ
電炉	電極の放電熱で鉄屑を溶解する炉
精錬	質のよいものにするため、粗金属から不純物を除く
鋼（はがね）	炭素含有量が約2%以下の鉄
銑鉄（せんてつ）	炭素含有量が約2%以上の鉄
自家発生スクラップ	鉄鋼メーカーの製鋼。圧延過程で発生し、工場内で発生、消費されるスクラップ
市中スクラップ	スクラップ市場で取引されるスクラップ
加工スクラップ	鉄鋼を素材として使用する自動車、機械、造船などの製造過程で発生するスクラップ
老廃スクラップ	ビル解体などによる解体屑や廃車、廃家電、スチール缶スクラップなど

3. 鉄スクラップの価格

鉄スクラップ価格の決まりかた

①その時々の各地域における需要と供給の関係
②国際商品であるため海外、特にアジア市況など国際価格との関係
③市中回収・加工業者の回収・加工コスト
④鉄鉱石等の原料価格動向と高炉メーカーの溶銑コスト

スチール缶スクラップとH2（ヘビースクラップ代表品種）との価格の関係

スチール缶スクラップは、市中スクラップのうち、指標品種のH2の価格変動と同じような推移を示します。スチール缶スクラップ（Cプレス）とH2との価格差は需給や海外市況動向、地域により異なりますが、2,000円から9,000円程度。

近年では評価が高まり、価格差が狭まっています。Cプレスの質が良ければ、H2よりも高価格で取引されているケースもあります。

自治体でのスチール缶プレス売却価格とスクラップ価格との関係

自治体で選別加工したスチール缶プレスは、スクラップ処理業者、運搬業者などを通して鉄鋼メーカーに納入されます。このため鉄鋼メーカーでのスクラップ購入価格（炉前価格）から、中間経路でのコストを差し引いた価格が自治体のスチール缶プレス売却価格となります。

鉄スクラップの価格動向（2024～2025年）

為替円安の進行で日本国内相場は歴史的な高値で推移

国内市場の鉄スクラップ市況は、円高の進行などを背景に2024年7～9月に急落してからは、安定した相場推移を続けています。国内主要3地区（関東、中部、関西）のH2月間平均価格は2025年7月まで小幅な値動きにとどまり、1トンあたり4万円前後を維持しています。国内粗鋼生産量は減産傾向が続き、鉄スクラップ需要量は減少していますが、市中スクラップの発生量も減少し、国内鉄スクラップ需給は「縮小」した状態で均衡しているためです。

海外市場は、関税政策による国内生産増などの期待感から米国内市況が2025年1～4月に急伸しました。しかし、中国国内の鋼材需要減に伴う鋼材輸出の急増で鋼材製品需給が世界的に緩み、鋼材市況が下落傾向となったことから、米国内市況以外は伸び悩み、4月以降は下落しました。この影響は米国内にも及び、また、関税政策に対する過剰な期待感が薄れたこともあって、米国内市況は急伸した分と同程度の急落を見せました。その後、米国内市況は様子見横ばい。その他の海外市場は小幅な値動きで推移しています。

スチール缶プレスの価格動向（2024～2025年）

スチール缶プレス価格は3万5千円前後で小幅な値動きに終始

スチール缶プレス価格も2024年7～9月の急落後は小幅な値動きに終始し、概ね様子見横ばいの推移を続けています。関東地区のスチール缶プレスの年間平均価格（電炉メーカーの購入価格）は、2021年から4年連続で1トンあたり4万円台を維持しました。2024年は8月末までの平均価格が4万5,300円。月間平均価格は2024年9月以降、月間平均価格は3万5千円前後での推移を続けています。原料として利用する電炉メーカーでは、品質が安定し、成分が明確なスチール缶スクラップに対する高い評価が定着しています。鉄鋼業のカーボンニュートラル実現を見据え、高炉転炉法から電炉法への転換など具体的な計画が動き始めています。CO_2排出削減を図る手段として国内外で鉄スクラップの利用がさらに拡大する見通しです。スチール缶スクラップの評価はさらに高まりそうです。

（年平均　円/t）

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年（1~8月）
関東地区	16,200	14,500	23,800	29,400	22,200	19,600	41,300	47,100	45,100	41,900	34,700
関西地区	16,700	15,100	23,900	29,600	22,700	20,500	43,600	49,100	46,000	43,600	37,100
西日本の代表的な事業所	19,100	18,100	27,200	32,200	24,600	23,000	46,700	51,300	49,000	46,100	39,600

★スチール缶プレスの価格動向については

㈱日刊市況通信社では内外のスクラップ市況動向、トピックス、話題、リサイクルに係わる法律の解説、などを掲載した日刊紙「日刊市況通信」、月刊誌「MRM（メタル・リサイクル・マンスリー）」を発行しています。

ホームページはこちら→

Report 1

国内鉄スクラップ価格、需給均衡し概ね様子見横ばい

～ H2価格は4万円前後で小幅な値動きに～

① 2024年7 ～ 9月の鉄スクラップ市況急落の要因

2024年7～9月にかけての鉄スクラップ価格の急落の要因は、以下の3つが挙げられます。第1は、鉄スクラップを主原料とする国内普通鋼電炉メーカーの減産です。人手不足や資材価格の高騰などで工事遅延や計画見直しによる建設需要の落ち込みにより、普通鋼電炉各社が減産を強化し、鉄スクラップ需要が大きく減少し、相場が下落しました。第2は、為替相場の変動です。7月11日の政府・日銀の為替介入、7月31日の日銀政策金利引き上げをきっかけに急速に円高が進行しました。これに伴い日本産鉄スクラップのドル建て価格が値上がりし、国際市場の中で「割高」な状態となりました。この状態を是正するため、円建て価格を引き下げる必要が生じ、国内市況が大幅に下落しました。第3は、海外市場の動向です。世界経済の先行きの不透明感などで粗鋼生産量が減少し、鉄スクラップ需要が後退しました。特に中国では、国内鋼材需要の不振によって余剰鋼材の輸出量が増加。年間１億トンを超える鋼材が輸出され、世界的に鋼材需給が緩み、鋼材価格が下落しました。この動きは間接的に鉄スクラップ市況を押し下げる要因となりました。

国内外の鉄スクラップ市況・需給動向

①国内市場は粗鋼生産量・市中スクラップ発生量とも減少し需給均衡状態

②鉄スクラップ市況は4万円前後（H2）で様子見横ばい

③米国内相場は関税政策の期待感で急伸も期待感薄れ急落

④中国の内需不振で鋼材輸出量は1億トン超の高水準、鋼材需給に緩み

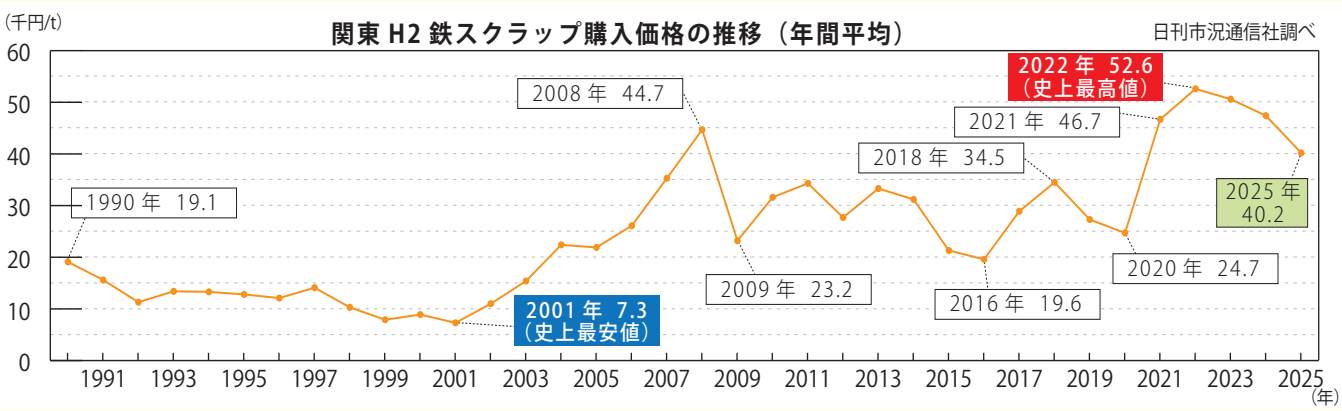
⑤世界粗鋼生産量は減産傾向

7 ～ 9月の国内主要3地区のH2炉前総合価格の値下がり幅は1万3,000円弱（約25%）。アジアの米国産鉄スクラップ（№1ヘビー）輸入価格の値下がり幅は30ドル強（約8%）でした。円高の影響が大きく、円建ての国内市況の下落幅が海外より大きくなりました。

② 2025年の鉄スクラップ市況

2024年7 ～ 9月の急落後の国内鉄スクラップ市況は、軟調感を残しつつもH2相場は1トンあたり4万円前後で概ね様子見横ばいの推移が続いています。国内粗鋼生産量の減少が続き、鉄スクラップ需要量が減少しています。これが軟調感が残る要因です。しかし、建設需要不振に伴う建物解体の減少などで市中スクラップの発生量が減少し、国内鉄スクラップ需給は「縮小」した状態で均衡しています。また、内需不振に伴い鉄スクラップ輸出量が増加していることも国内需給を調整しました。このため国内鉄鋼メーカーは、鉄スクラップの必要量を確保するため、慎重な購入姿勢を取らざるを得ず、小幅な値動きに終始しています。

海外市場では、米国内市況が関税政策によって国内粗鋼生産量が高まり、鉄スクラップ需要量が増えるとの期待感が膨らんだため、１～4月に急伸しました。しかし、「過剰」な期待感が薄れたことで4 ～ 5月に急落し、上伸分をほぼ解消しました。米国以外は、中国の高水準な鋼材輸出が継続しているため、世界の粗鋼生産量が減産傾向となっており、鉄スクラップに対する引き合いは弱いのが現状です。米国内相場に合わせ上伸しましたが値上がり幅は小幅なものにとどまり、米国相場に合わせて下落。その後は小幅な値動きが続いています。



第３章

スチール缶リサイクルの実態～自治体アンケートより～

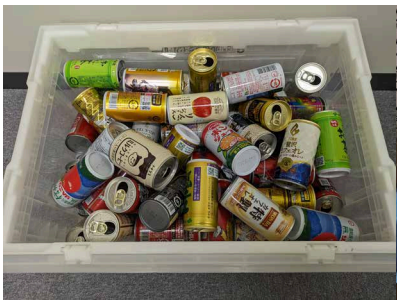
スチール缶の資源化に関するアンケート 2025　集計結果

当協会では、自治体の資源収集の実態を把握するため、スチール缶の資源化に関するアンケート調査を毎年行っています。

アンケート結果は、第３章スチール缶リサイクルの実態、第４章店頭回収の実態で記載しています。

調査対象期間：2024年4月～2025年3月
調査実施期間：2025年5月～7月
対象：全国の市及び東京23区（計815区市）
回答自治体数：708区市
回収率：86.9%
人口カバー率：85.6%

注. 総人口は総務省統計局
「2024年度10月1日現在推定人口」1億2,380万2,000人



資源物の分別収集実施状況

「全域で実施」が99.4%で最も高く、2014年度から変わらず、全国のほとんどの自治体で実施されている。

(%)

	2014年度	2019年度	2024年度
全域で実施	99.1	99.0	99.4
部分的に実施	0.8	0.5	0.6
未実施	0.1	0.5	0.0
合計	100.0	100.0	100.0
	(n=732)	(n=741)	(n=708)

資源物の収集品目（複数回答）

「びん」、「ペットボトル」、「アルミ缶」、「飲料用スチール缶」、「食品用スチール缶（缶詰等）」は9割を超え、2014年度から変わらずほとんどの自治体で分別収集されている。

容器包装以外では、「新聞」、「雑誌」が8割を超えている。また、すべての品目で増加している。

2021年に制定されたプラスチック資源循環促進法で資源化対象物となった「製品プラスチック」は31.5%であった。

「その他」には陶磁器・ガラス、枝葉・草、発泡スチロール、インクカートリッジ等があった。

(%)

		2014年度	2019年度	2024年度
容器包装	びん	98.5	97.6	98.9
	ペットボトル	96.3	95.7	98.6
	アルミ缶	96.7	96.6	97.9
	飲料用スチール缶	96.7	96.7	97.7
	食品用スチール缶(缶詰等)	–	89.3	92.5
	お茶・菓子缶(一般缶)	–	87.7	89.0
	段ボール	84.7	84.1	84.5
	飲料用紙パック	78.7	77.5	77.1
	プラスチック製容器包装	65.8	65.0	70.2
	紙製容器包装	51.7	55.0	56.2
	トレイ	「その他」に含む	22.9	25.6
新聞		84.4 (古紙類)	84.3 (古紙類)	84.0
雑誌				83.9
雑がみ				79.1
有害物・危険物		46.1 (スプレー缶)	66.1 (スプレー缶)	79.4
小型家電		28.5	48.7	60.3
布類・古着類		54.6	56.2	60.0
金属類		44.0	44.8	52.5
リチウムイオン電池・蓄電池		–	–	46.8
廃食油		–	25.1	32.6
製品プラスチック		–	–	31.5
その他		41.9	28.6	14.1
		(n=731)	(n=737)	(n=708)

飲料用スチール缶と同じ排出容器で収集する品目（複数回答）

「アルミ缶」、「食品用スチール缶（缶詰等）」、「お茶・菓子缶（一般缶）」と同じ容器で収集する自治体が多く、2014年度から変わらず約8割を占める。

一方、「飲料用スチール缶のみ」で収集しているのは、1.9%であった。

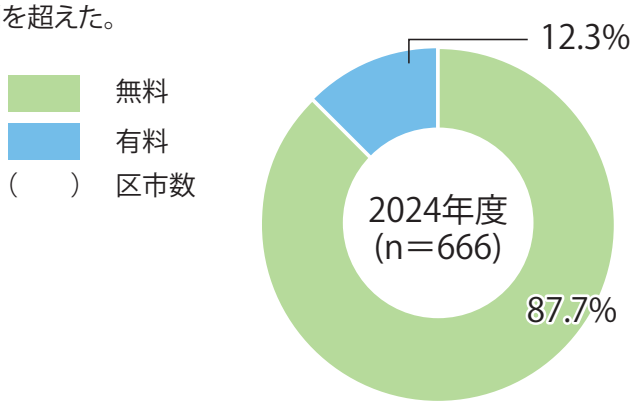
「スプレー缶・カセットボンベ」は発火事故防止のためか、減少している。

(%)

	2014年度	2019年度	2024年度
なし（飲料用スチール缶のみ）	1.7	2.1	1.9
アルミ缶	85.3	87.0	87.3
食品用スチール缶（缶詰等）	89.0	87.5	86.7
お茶・菓子缶（一般缶）	84.0	79.1	79.2
スプレー缶・カセットボンベ	40.9	35.6	30.8
びん	20.9	20.1	21.4
18リットル缶（ガロン缶）	16.5	14.0	14.2
金属類	13.2	11.4	10.7
ペットボトル	6.4	5.8	6.2
その他	6.9	6.5	5.2
	(n=707)	(n=713)	(n=692)

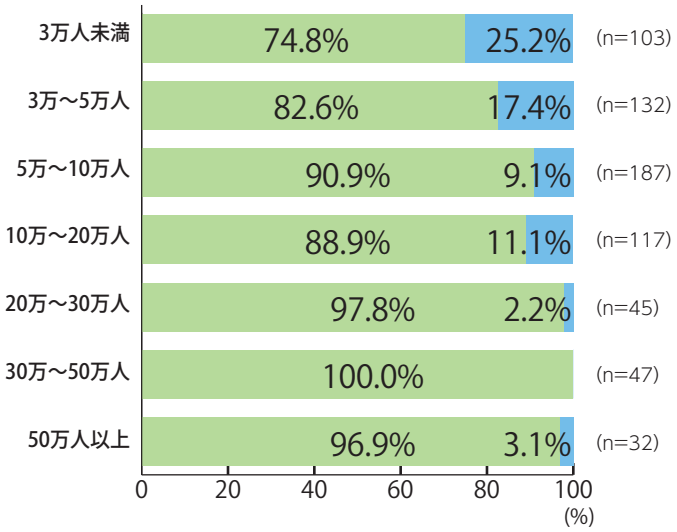
飲料用スチール缶収集の有料化

「無料」が87.7%で8割を超えた。



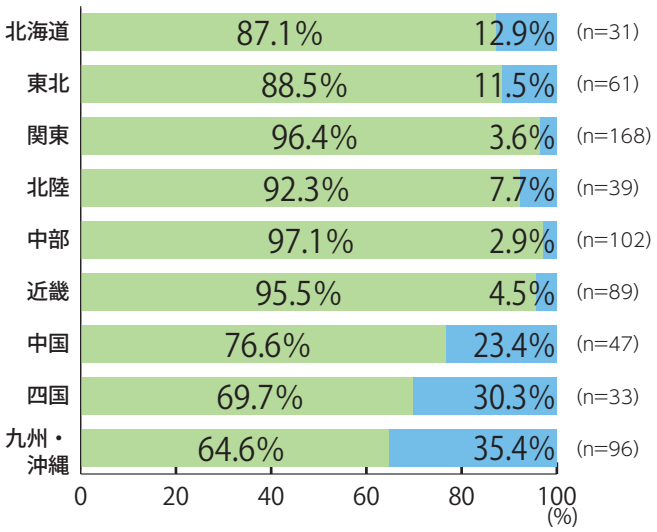
人口別

「有料」は、「3万人未満」で25.2%と最も高く、人口が少ない自治体ほど割合が高い傾向にある。



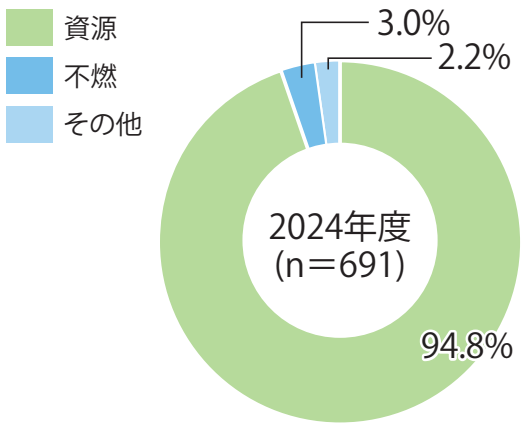
地域別

「有料」は、「四国」「九州・沖縄」で3割を、「中国」で2割を超えた。



飲料用スチール缶収集の分類

排出時の分類表記は、「資源」が94.8%と大半を占めた。



スチール缶の選別方法

収集されたスチール缶の選別方法は、「磁選＋手選別」が52.0%で最も高く、次いで「磁選のみ」が30.6%であった。

一方、「選別しない」は9.1%であった。

(%)

		2024年度
選別しない		9.1
選別する	磁選+手選別	52.0
	磁選のみ	30.6
	手選別のみ	3.4
	その他	4.9
合計		100.0

(n=671)

選別後、飲料用スチール缶と混ざっているもの（複数回答）

「食品用スチール缶（缶詰等）」が68.9%と最も高く、次いで「お茶・菓子缶（一般缶）」が55.7%であった。

「飲料用スチール缶のみ」は24.3%であった。

(%)

	2024年度
なし(飲料用スチール缶のみ)	24.3
食品用スチール缶(缶詰等)	68.9
お茶・菓子缶(一般缶)	55.7
スプレー缶・カセットボンベ	22.1
アルミ缶	12.1
18リットル缶(ガロン缶)	8.5

(n=610)

スチール缶の加工形態

選別されたスチール缶の加工形態は、「プレス」が85.3%で最も高く、2013年度から変わらず8割を超えた。

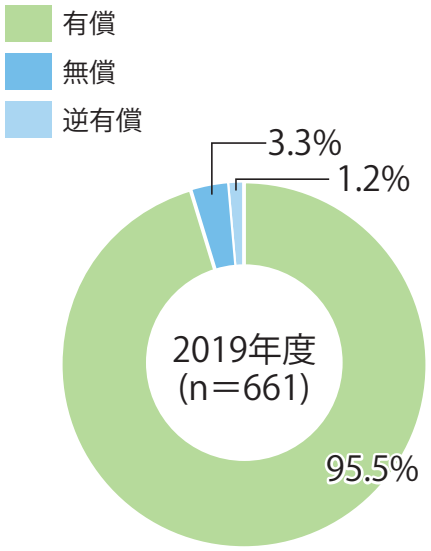
一方、「加工しない」は6.8%であった。

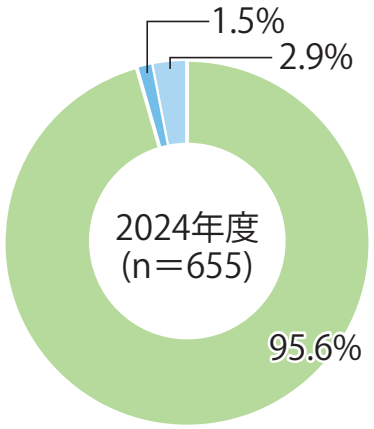
(%)

		2014年度	2019年度	2024年度
加工しない		3.7	4.6	6.8
加工する	プレス	85.1	83.9	85.3
	丸缶(スチールとアルミの選別のみ)	3.4	3.3	2.4
	シュレッダー	3.3	3.5	2.3
	1缶プレス	0.3	0.4	0.8
	その他	4.2	4.3	2.6
合計		100.0	100.0	100.0
		(n=696)	(n=697)	(n=665)

スチール缶の価格状況

「有償」での取引が95.6%で大半を占めた。2019年度と比較すると、「逆有償」が増えている。





スチール缶の資源化量

行政収集によるスチール缶の資源化量は、2024年度実績の推計で85,041トンであった。

これを全国ベースに換算すると、前年度より12,940トン減の99,352トンである。

「その他」は、複数の加工形態を併用している等の回答であった。

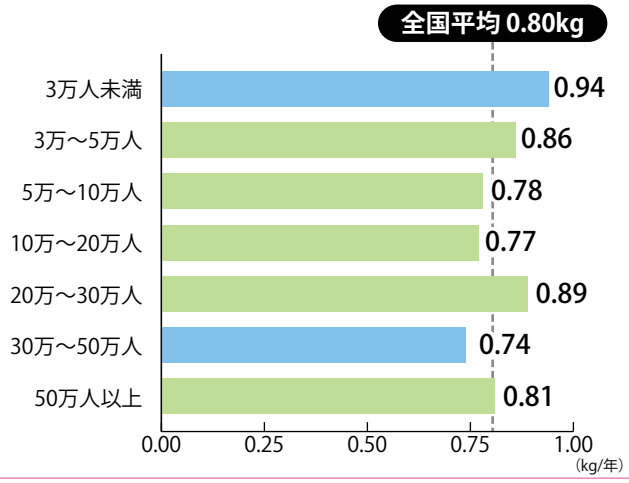
(t/年)

		2024年度
加工しない		4,230
加工する	プレス	69,911
	丸缶(スチールとアルミの選別のみ)	1,233
	シュレッダー	985
	1缶プレス	419
	その他	8,263
合計		85,041

1人あたりのスチール缶資源化量

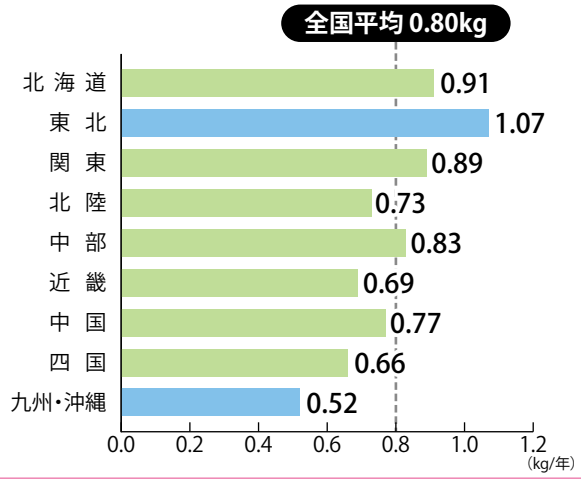
人口別

1人あたりの資源化量は、全国平均で0.80kgで、「3万人未満」が0.94kgで最大、「30万～50万人」が0.74kgで最小であった。



地域別

「東北」が1.07kgで最大、「九州・沖縄」が0.52kgで最小であった。



望ましいスチール缶の加工形態

スチール缶を「資源」として円滑にリサイクルするため、容器包装リサイクル法の分別基準に適合していることが最も重要です。

適切なスチール缶プレス

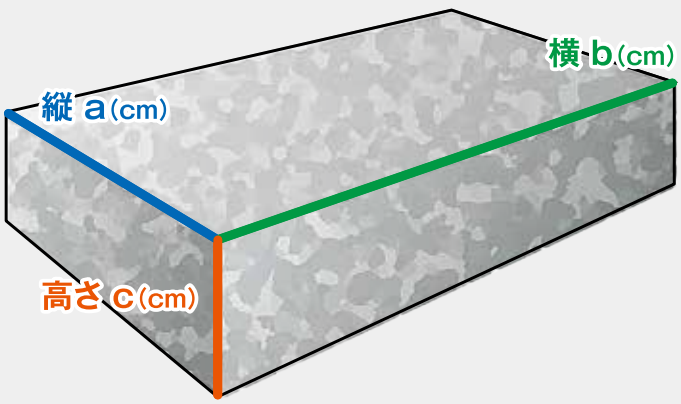
((一社)日本鉄資源協会「鉄スクラップ検収統一規格」より)

[大きさ]

- 最大辺80cm以上
- 60(cm) ≦ a+b+c ≦ 180(cm)

[かさ比重]

- 0.6t/m^3以上



法律では異物が無いことが条件となっていますが、調査結果では未だに異物の混入が多く見られます。ご注意ください。

不燃ごみからのスチール缶（鉄類）回収量

2024年度実績の推計で、199,616トンであった。このうちスチール缶量は、9,487トンである。

これを全国ベースに換算すると、268,862トン、うちスチール缶量は12,778トンである。

「その他」は、複数の加工形態を併用している等の回答であった。

(t/年)

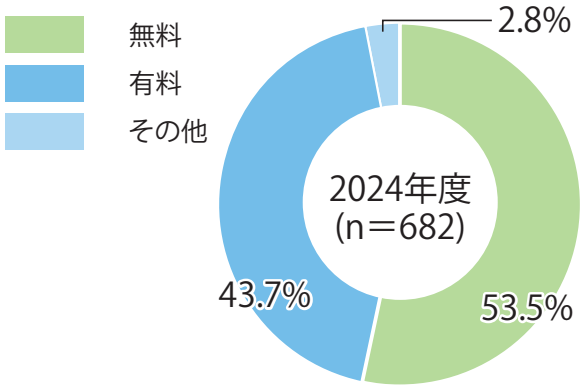
	鉄類回収量	うちスチール缶
破砕+磁選	102,040	2,030
破砕+磁選+プレス	34,162	2,588
手選別のみ	32,574	648
磁選+プレス	3,765	1,217
破砕のみ	3,424	89
その他	23,651	2,915
合計	199,616	9,487

(n=516)

注. 東京都区部については、東京23 区一部事務組合データより算出

不燃系ごみ収集の有料化

「無料」が53.5%で半数以上を占めた。



鉄類の加工形態【有償の場合】

有償で取引される場合は、「破砕＋磁選」が40.0%で最も高く、次いで「破砕＋磁選＋プレス」が18.4%であった。

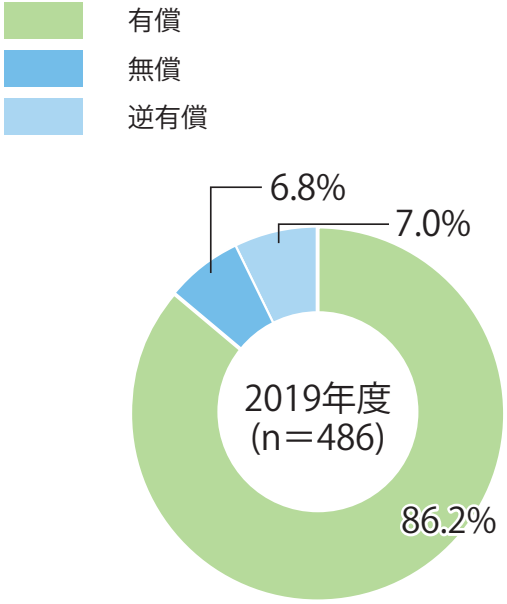
(%)

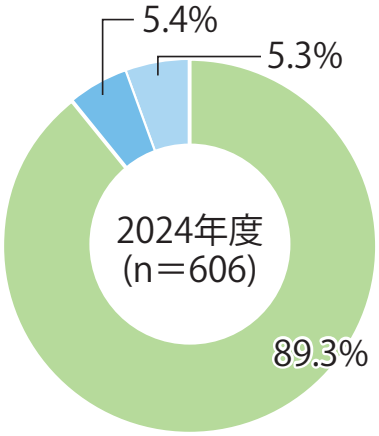
	2024年度
破砕+磁選	40.0
破砕+磁選+プレス	18.4
手選別のみ	15.9
破砕のみ	1.7
磁選+プレス	1.7
その他	22.1
合計	100.0

(n=515)

不燃系ごみから回収した鉄類の売却状況

「有償」が89.3%で、2019年度と変わらず約9割を占めた。





鉄類の最新売却価格の変動【有償の場合】

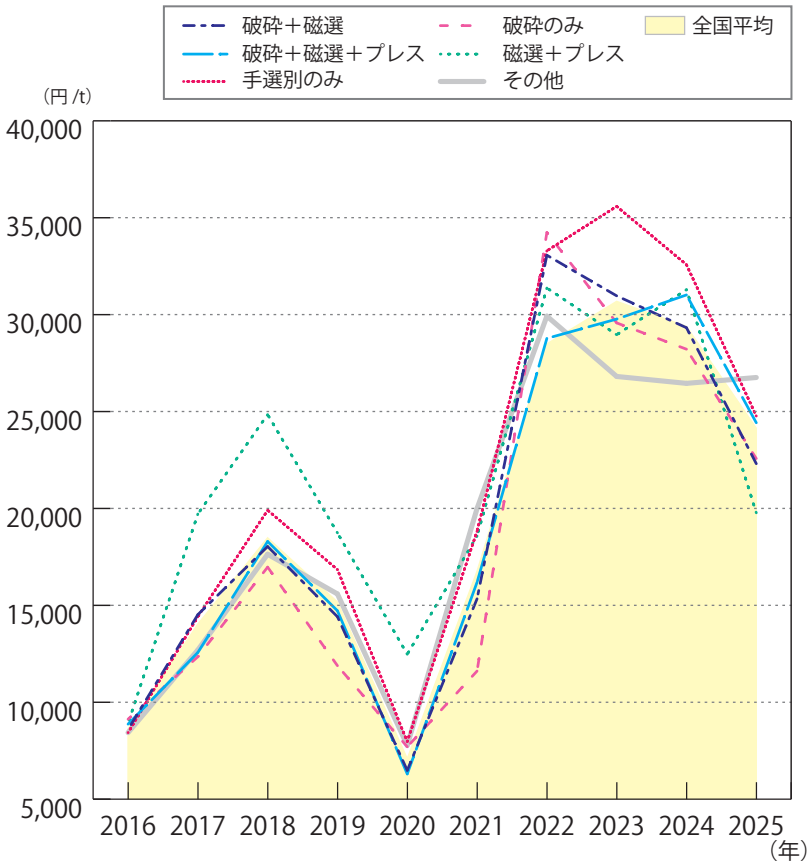
2016年は中国の動向により、2020年は新型コロナウイルスの影響により、全体で価格が大きく下落した。

2021年からは回復して上昇したが、2024年は全体で下落した。

(円/t)

	2025年5~7月
手選別のみ	24,767
破砕+磁選+プレス	24,421
破砕のみ	22,574
破砕+磁選	22,309
磁選+プレス	19,775
その他	26,757
平均	24,141

(n=479)



スチール缶プレスの年度平均売却価格【地域別】

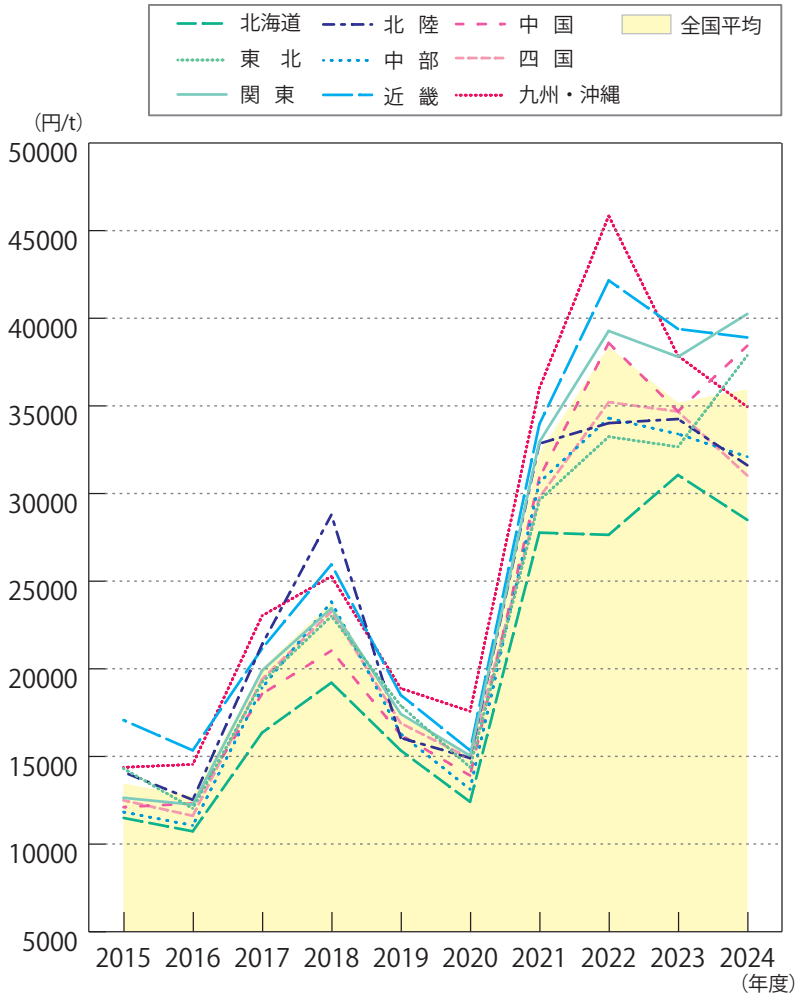
2016年度、2019年度に下落し、2021年度から大幅に上昇した。

2024年度は「東北」、「関東」、「中国」で上昇した。「北海道」が、最も低い傾向は変わらない。

(円/t)

	2024年度
北海道	28,492
東北	37,877
関東	40,247
北陸	31,613
中部	32,100
近畿	38,903
中国	38,432
四国	31,026
九州・沖縄	34,944
平均	35,945

(n=507)



スチール缶の最新売却価格【形態別】

「１缶プレス」が32,760円/トンで最も高く、「丸缶（スチールとアルミの選別のみ）」が25,691円/トンで最も安い。

(円/t)

	2025年5~7月
1缶プレス	32,760
プレス（ブロック状）	32,049
シュレッダー	25,818
丸缶（スチールとアルミの選別のみ）	25,691
その他	20,650
平均	32,373

(n=557)

スチール缶プレスの最新売却価格【地域別】

「近畿」が36,374円/トンで最も高く、「北海道」が26,211円/トンで最も安い。

(円/t)

	2025年5~7月
北海道	26,211
東北	34,241
関東	33,633
北陸	29,127
中部	28,091
近畿	36,374
中国	33,495
四国	28,806
九州・沖縄	31,217
平均	32,049

(n=509)

スチール缶プレスの最新売却価格【価格別】

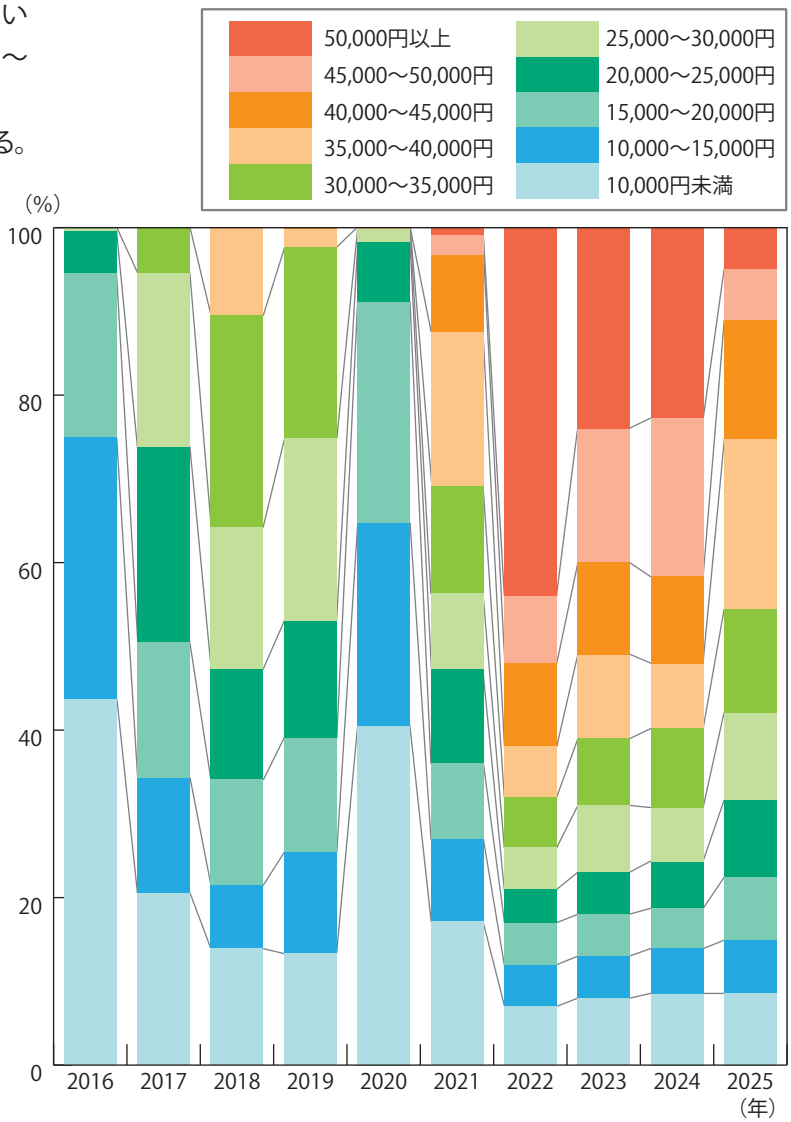
2022年以降「50,000円以上」の割合が高い状態が続いていたが、2025年は「35,000～40,000円」が最も高く20.4%を占めた。

次いで「40,000～45,000円」が14.1%である。

(%)

価格(円/t)	2025年 5~7月
50,000円以上	4.9
45,000～50,000円	6.1
40,000～45,000円	14.1
35,000～40,000円	20.4
30,000～35,000円	12.4
25,000～30,000円	10.4
20,000～25,000円	9.2
15,000～20,000円	7.5
10,000～15,000円	6.3
10,000円未満	8.6
合計	100.0

(n=509)



第４章

店頭回収の実態 ～自治体アンケートより～

「店頭回収」とは家庭から持ち込まれた容器包装等を、販売店が店頭（回収ボックスや直接受取）で回収するものです。

公共施設などの「拠点回収」や、町会・自治会、PTA等の団体による「集団回収」は、この調査には含みません。

店頭回収の実施状況

店頭回収が「実施されている」自治体は53.5%と半数以上を占めている。

※2024 年度に初めて設けた設問のため、過去年度との比較なし

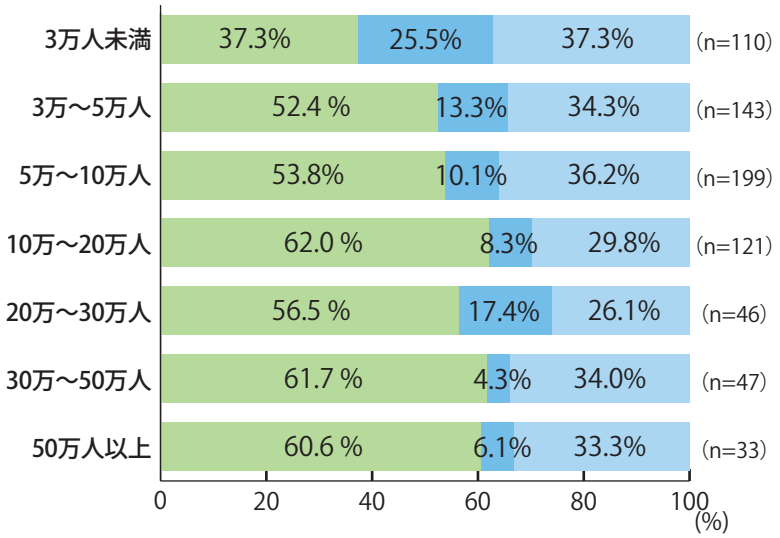
(%)

	2024年度
実施されている	53.5
実施されていない	12.8
把握していない	33.7
合計	100.0

(n=703)

人口別

「実施されている」は、「10万～20万人」で62.0%と最も高く、「3万人未満」で37.3%と最も低い。



店頭回収の協力関係（複数回答）

「支援・協力はしていない」が42.6%で最も高いが、2014年度から減少している。

協力している自治体では、「市民にＰＲしている」が33.2%、「自治体が集めてリサイクルしている」が27.7%であった。

「その他」には、「自治体のホームページに実施店舗を掲載している」等があった。

※2024 年度は、店頭回収を「実施している」と回答した自治体（53.5%、376 自治体）のみが対象

(%)

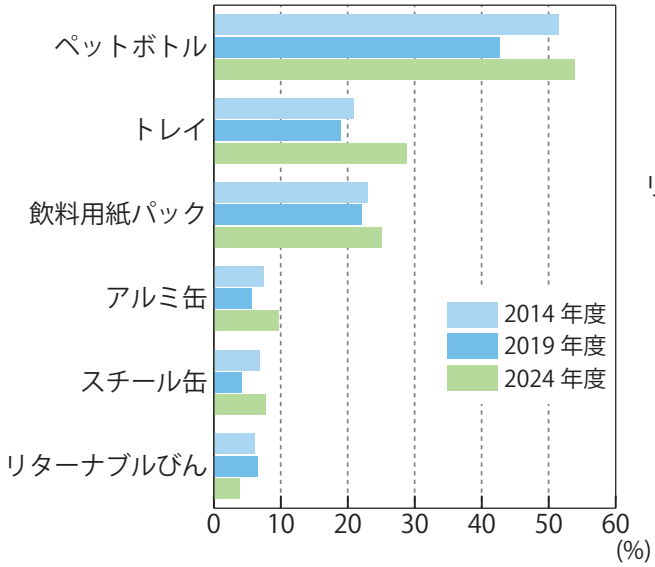
	2014年度	2019年度	2024年度
支援・協力はしていない	62.2	54.5	42.6
市民にPRしている	16.1	20.1	33.2
自治体が集めてリサイクルしている	20.2	16.5	27.7
事業者を認定する制度がある	8.9	9.3	13.0
資機材を提供している	8.9	9.7	9.0
事業者と情報や意見交換している	4.4	6.1	8.2
協議会や懇談会等で話し合っている	3.0	5.5	1.9
その他	4.4	2.3	4.3
	(n=732)	(n=741)	(n=376)

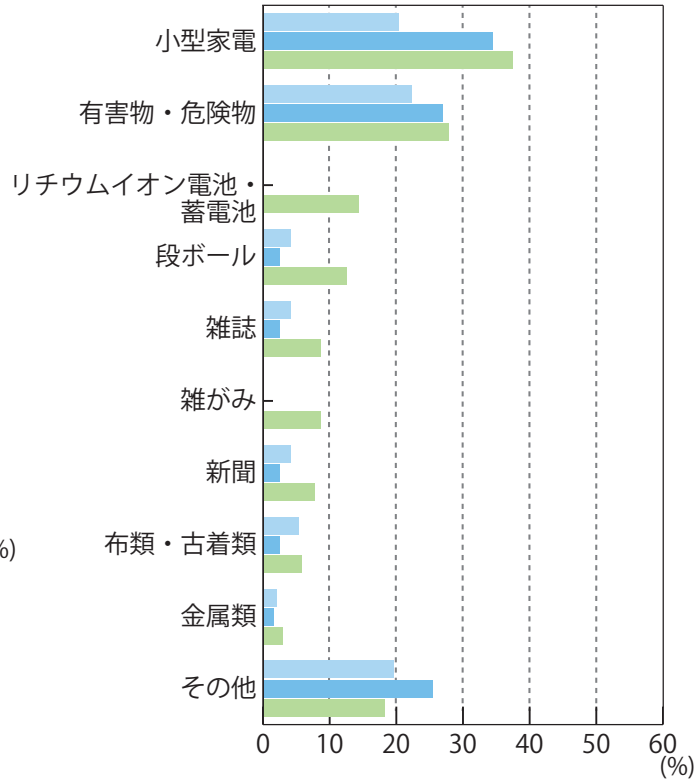
店頭回収されたものを自治体が集めてリサイクルしている品目（複数回答）

店頭回収が「実施されている」自治体（53.5%）のうち、事業者と協力して「自治体が集めてリサイクルしている」（27.7%、104自治体）に聞いた。
「ペットボトル」が53.8%と最も高く、次いで「小型家電」が37.5%であった。
「その他」には廃食油、インクカートリッジ等があった。

(%)

		2014年度	2019年度	2024年度
容器包装	ペットボトル	51.4	42.6	53.8
	トレイ	20.9	18.9	28.8
	飲料用紙パック	23.0	22.1	25.0
	アルミ缶	7.4	5.7	9.6
	スチール缶	6.8	4.1	7.7
	リターナブルびん	6.1	6.6	3.8
小型家電		20.3	34.4	37.5
有害物・危険物		22.3	27.0	27.9
リチウムイオン電池・蓄電池		-	-	14.4
段ボール		4.1	2.5	12.5
雑誌		4.1	2.5	8.7
雑がみ		-	-	8.7
新聞		4.1	2.5	7.7
布類・古着類		5.4	2.5	5.8
金属類		2.0	1.6	2.9
その他		19.6	25.4	18.3
		(n=148)	(n=122)	(n=104)





店頭回収を実施している事業者の種類（複数回答）

「スーパーマーケット」が95.7%で最も高く、9割を超えた。次いで、「ホームセンター」が27.7%であった。
「その他」には、ショッピングモールやガソリンスタンド等があった。

(%)

	2024年度
スーパーマーケット	95.7
ホームセンター	27.7
家電量販店	19.9
ドラッグストア	18.4
コンビニエンスストア	12.8
その他	12.8

(n=376)

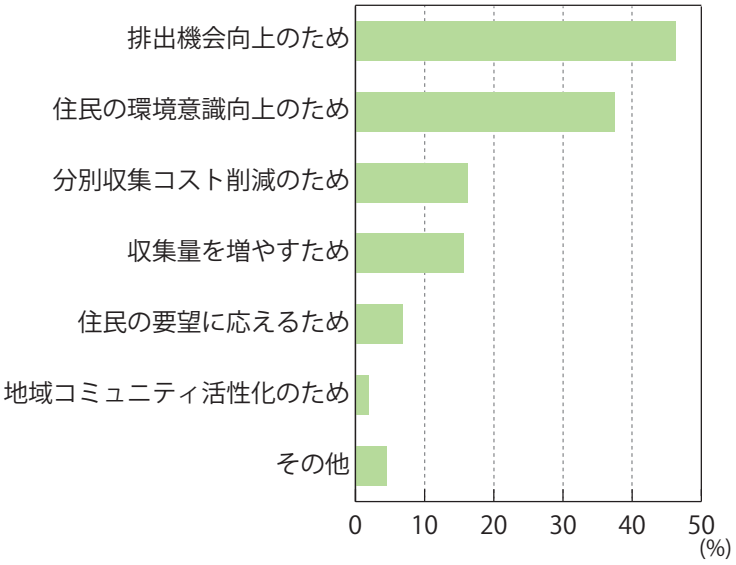
店頭回収を推進する理由（複数回答）

「排出機会向上のため」が46.3%で最も高く、次いで「住民の環境意識向上のため」が37.5%であった。
「その他」には、ごみ減量・リサイクル促進のためや、集団回収団体の高齢化等に備えるため等があった。

(%)

	2024年度
排出機会向上のため	46.3
住民の環境意識向上のため	37.5
分別収集コスト削減のため	16.2
収集量を増やすため	15.7
住民の要望に応えるため	6.9
地域コミュニティ活性化のため	1.9
その他	4.5

(n=376)

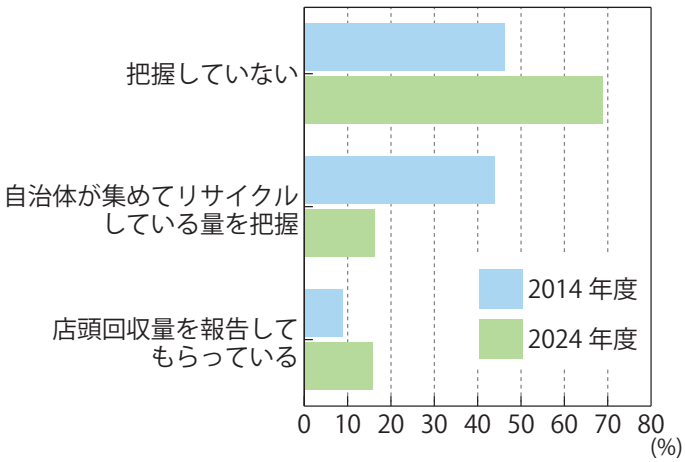


店頭回収量の把握（複数回答）

「把握していない」が68.9%で半数以上を占めた。
「自治体が集めてリサイクルしている量を把握」は16.2%、「店頭回収量を報告してもらっている」は15.7%であった。

(%)

	2014年度	2024年度
把握していない	46.3	68.9
自治体が集めてリサイクルしている量を把握	44.0	16.2
店頭回収量を報告してもらっている	8.9	15.7
	(n=257)	(n=376)

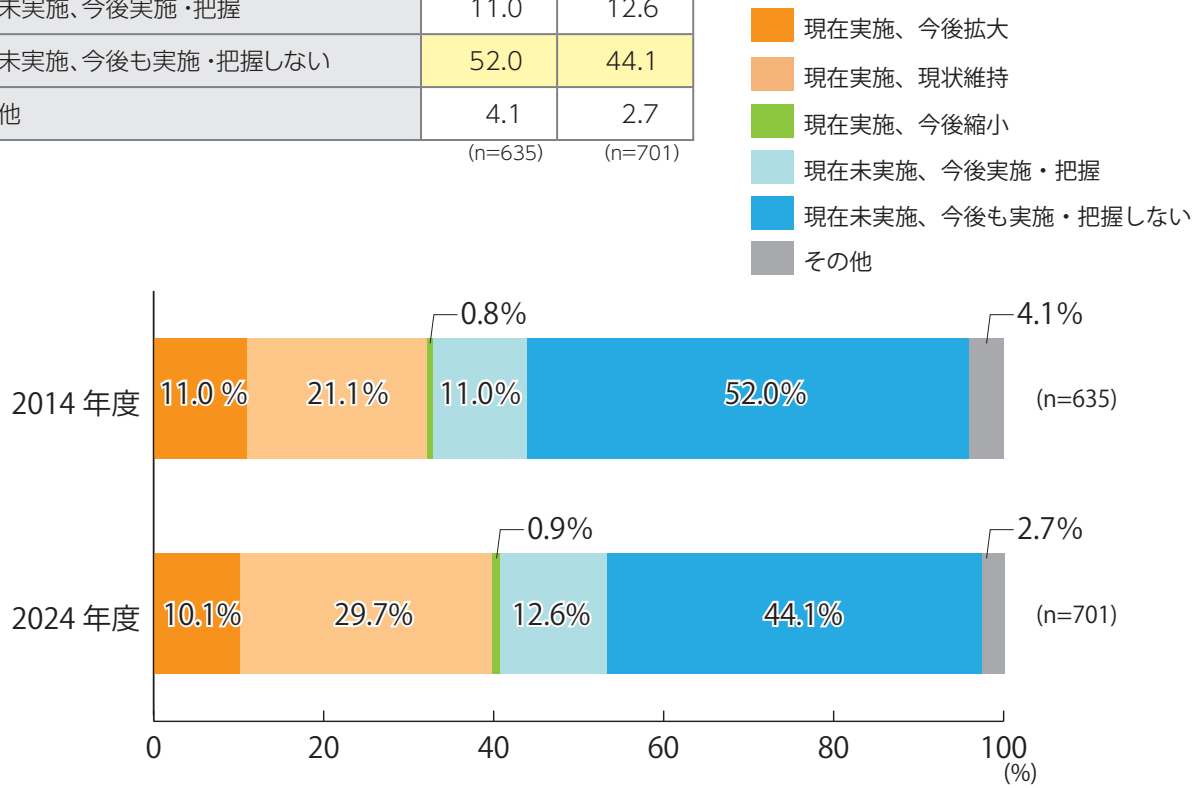


店頭回収について今後の意向（回答は１つ）

「現在未実施、今後も実施・把握しない」が44.1%で最も高く、次いで「現在実施、現状維持」が29.7%であった。
「現在実施、今後拡大」は10.1%であった。
2014年度と比較すると、傾向は変わらない。

(%)

	2014年度	2024年度
現在実施、今後拡大	11.0	10.1
現在実施、現状維持	21.1	29.7
現在実施、今後縮小	0.8	0.9
現在未実施、今後実施・把握	11.0	12.6
現在未実施、今後も実施・把握しない	52.0	44.1
その他	4.1	2.7
	(n=635)	(n=701)



店頭回収を今後も実施・把握しない、または縮小する理由（複数回答）

「自治体回収で十分な量が回収できているため」が36.2%で最も高く、次いで「回収の仕組みが定着し、自治体が関わらなくてもよくなったため」が25.4%であった。
2014年度と比較すると、いずれも減少している。
「コストがかかるため」「回収場所がない・減ったため」「回収業者がない・減ったため」「回収量が減ったため」はいずれも増加している。

(%)

	2014年度	2024年度
自治体回収で十分な量が回収できているため	42.7	36.2
回収の仕組みが定着し、自治体が関わらなくてもよくなったため	35.2	25.4
コストがかかるため	16.1	24.0
回収場所がない・減ったため	0.0	5.1
回収業者がない・減ったため	0.3	3.9
回収量が減ったため	0.9	1.8
その他	8.4	14.7
	(n=335)	(n=334)

Report 2

店頭回収実地調査報告
～自治体とスーパーマーケットの連携事例～

スチール缶リサイクル協会では、これまで店頭回収に関する調査をしており、2013年には全国の事例をとりまとめた「店頭回収・拠点回収事例集」を発行しました。

この度、スチール缶資源化に関するアンケート2025の回答結果より、事業者が自主的に取り組んでいる資源回収に関して、自治体が住民に対して回収場所や品目をＰＲしている事例を調査しました。

東京都 東大和市

東大和市は事業者が自主的に資源を回収し、リサイクルを行っている市内事業者を「リサイクル協力店」に認定し、市のホームページ等で店舗名・所在地・回収品目を公開して市民へＰＲするとともに、排出マナーについて呼び掛けています。

TAIRAYA 奈良橋店

回収品目 | あき缶、紙パック、発泡スチロールトレイ、ペットボトル、ペットボトルキャップ

Point

- 回収ボックスの資源は、１日に 10 回程度、グロサリー、惣菜、精肉、青果等部門スタッフが交代で袋替えを行い、バックヤードで保管。
- １日１回リサイクルセンターへ運ばれ、グループ会社にて中間処理。あき缶はスチールとアルミに選別した後、売却。
- 資源物は物流納品の帰り便を利用して運搬しており、エネルギー使用量や CO_2 排出量を抑えた回収フローとなっている。

課題

- 購入した食品をポリ袋に移し替え、トレイはそのまま捨てて帰られることがあり、１日３回の店内アナウンスで、水で洗って出すようにお願いしている。

店頭回収ボックス

バックヤード

静岡県 静岡市

静岡市は、ホームページで店頭回収を実施している店舗名・所在地・回収品目を一覧で公開している他、しずマップ静岡市地理情報システムに「資源回収拠点マップ」を掲載し、毎年情報を更新しています。

イトーヨーカドー静岡店

回収品目 | あき缶、紙パック、発泡スチロールトレイ、ペットボトル、ペットボトルキャップ、新聞・チラシ・雑誌・本、ダンボール、電池、インクカートリッジ、フードドライブ

Point

- ペットボトル回収機のペットボトルと発泡スチロールトレイ以外の資源は、処理業者へ委託して１日１回回収。缶は処理業者にてアルミとスチールに選別した後、売却。
- 紙リサイクルステーションと、３台あるペットボトル回収ボックスのうち２台は、イトーヨーカドー等での買い物に利用できる nanaco ポイントを付与。
- 静岡市ではホームページ等でペットボトルを含め資源物の拠点回収の利用を呼び掛けているため、店頭回収を利用する住民が多い。特に nanaco ポイントが付与される回収機の利用率が高く、１～２時間おきに清掃業者が回収袋の交換を行う。

課題

- 回収する資源の量が多く閉店間際の作業が難しいため、リサイクルステーションは閉店時間より２時間前倒しして閉鎖し、対応している。

リサイクルステーション

回収ボックス

資料編
1

スチール缶リサイクル率の算出方法

スチール缶リサイクル率の算出方法は、次の通りです。

スチール缶消費重量

算出方法

2024 年 1 月～ 12 月における国産スチール缶の出荷重量、缶詰輸出及び輸入に使用されたスチール缶の重量、空缶として輸入されたスチール缶の重量を、経済産業省統計及び財務省貿易統計、スチール缶重量の実測値などを基に把握した。

算出結果：292,822 トン（① － ② ＋ ③ ＋ ④）

①国産スチール缶出荷重量：217,042 トン
飲料缶・食料缶・一般缶については、経済産業省統計トン数を基に算出
18 リットル缶については、経済産業省統計トン数に全国18 リットル缶工業組合連合会発表の（食糧）比率を乗じて算出

②缶詰輸出に使用されたスチール缶重量：1,493 トン
財務省貿易統計を基に算出

③缶詰輸入に使用されたスチール缶重量：75,985 トン
財務省貿易統計を基に算出。「気密容器」（缶詰だけでなく他容器も含む）にて輸入された食品缶詰・トマト及び野菜ジュース、ペットフード缶の実績重量を、日本国内で製造する場合の代表的な缶種で缶詰にされたと仮定して、缶数を推計して単位缶重量を掛けて容器重量を算出した。
うちペットフード缶輸入：12,948 トン　（＊（一社）ペットフード協会データより算出）

④空缶として輸入されたスチール缶重量：1,288 トン
財務省貿易統計トン数

スチール缶再資源化重量

算出方法

スチール缶が販売されてから回収再利用されるまで 3 ヶ月かかるとみなし、当協会から全国の電炉メーカー・高炉メーカー・ペレットメーカー・鋳物メーカー等へ、2024 年 4 月～ 2025 年 3 月におけるスチール缶スクラップ利用量に関する調査票を送付し、75 事業所から回答を得て集計した。
これに、全国の鉄スクラップ取扱事業者で処理され、缶スクラップ以外の規格で製鋼原料として流通したスチール缶の量を加えた。（調査により把握できた量を計上）
上記集計値からスチール缶スクラップに含まれている飲料缶用アルミ蓋の重量及びスチール缶以外の鉄くずなどの異物を除いて算出した。

算出結果：276,396 トン（① － ② － ③）

①スチール缶スクラップ購入量：289,713 トン
②上記①に含まれるスチール缶以外のエアゾール缶・ビニールなどの異物重量：2,625 トン
③上記①に含まれる飲料缶用アルミ蓋重量：10,692 トン

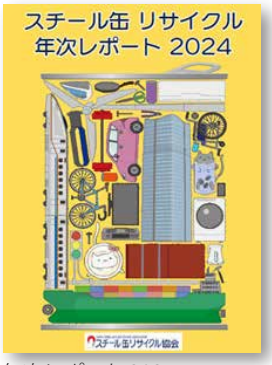
スチール缶リサイクル率（2024 年度）

$$\frac{\text{再資源化重量（276,396 トン）}}{\text{消費重量（292,822 トン）}} = 94.4\%$$

スチール缶リサイクル協会の活動報告

（2024 年 10 月～ 2025 年 9 月）

出雲市



年次レポート 2024
過去の年次レポートはこちら→

スロープトイ

エコプロ 2024

子どもとためす環境まつり

記者説明会

2024 年 10 月

- 「スチール缶リサイクル年次レポート2024」発行
- 散乱防止・美化キャンペーン実施　＠出雲市
- 「協会活動記者説明会」を開催
- 「子どもとためす環境まつり」に出展
- 「JFEちばまつり」に出展
- ◎ ３R推進全国大会

11 月

- 「JFE西日本フェスタinくらしき」に出展
- 「秋の千代田区一斉清掃」に参加
- 「はんだふれあい産業まつり」に出展
- ◎ 容器包装交流セミナー in岐阜

12 月

- 楽しくリサイクルルートを学べるスロープトイを製作
- 「エコプロ2024」に出展
- ◎ 容器包装リサイクル懇談会
- ◎ 自主行動計画フォローアップ記者説明会

2025 年 1 月

- 小中学校における環境教育推進を支援
  ：全国の20校への支援を決定し表彰
  （募集期間6月～ 10月）
- ◎ 容器包装３Rフォーラム

くらしき

はんだ

千代田区

表彰（環境教育推進支援）
↓募集要項はこちら

受入れ授業

ふくやま

製鉄所見学

出前授業

3月

■ 出前授業
：稚内市立大岬小学校

4月

■ 受入れ授業：山形市立金井中学校
■ 散乱防止・美化キャンペーン実施＠旭川市

5月

■ スチール缶の資源化に関するアンケート2025
（5月～9月）
①家庭系の分別回収、②再資源化状況
■「JFE西日本フェスタinふくやま」に出展
■ 定時総会を開催
■ 受入れ授業：富谷市立富谷第二中学校
豊明市立沓掛中学校

6月

■ 受入れ授業：角田市立北角田中学校
■「春の千代田区一斉清掃」に参加
■「宮崎市環境フェア2025」に出展

7月

◎ 容器包装交流セミナー in大津
◎ 容器包装3R情報交換会

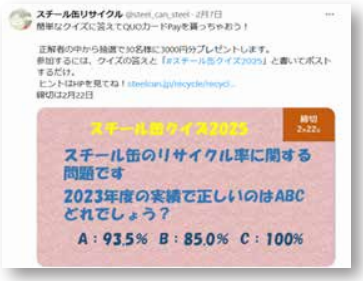
8月

■ 夏休み製鉄所見学会
（日本製鉄東日本製鉄所
君津地区）を実施

9月

2月

■ Xクイズキャンペーンを実施
■ スチール缶の集団回収を支援
：全国の民間団体24団体を支援
（募集期間6月～11月）
◎ 容器包装交流セミナー in前橋



Xクイズキャンペーン

旭川市

受入れ授業

宮崎市環境フェア

受入れ授業

表彰（民間集団回収支援）

◎は３Ｒ推進団体連絡会での活動
ホームページはこちら→

製鉄工場（電炉・高炉・鋳物）・ペレット工場の分布

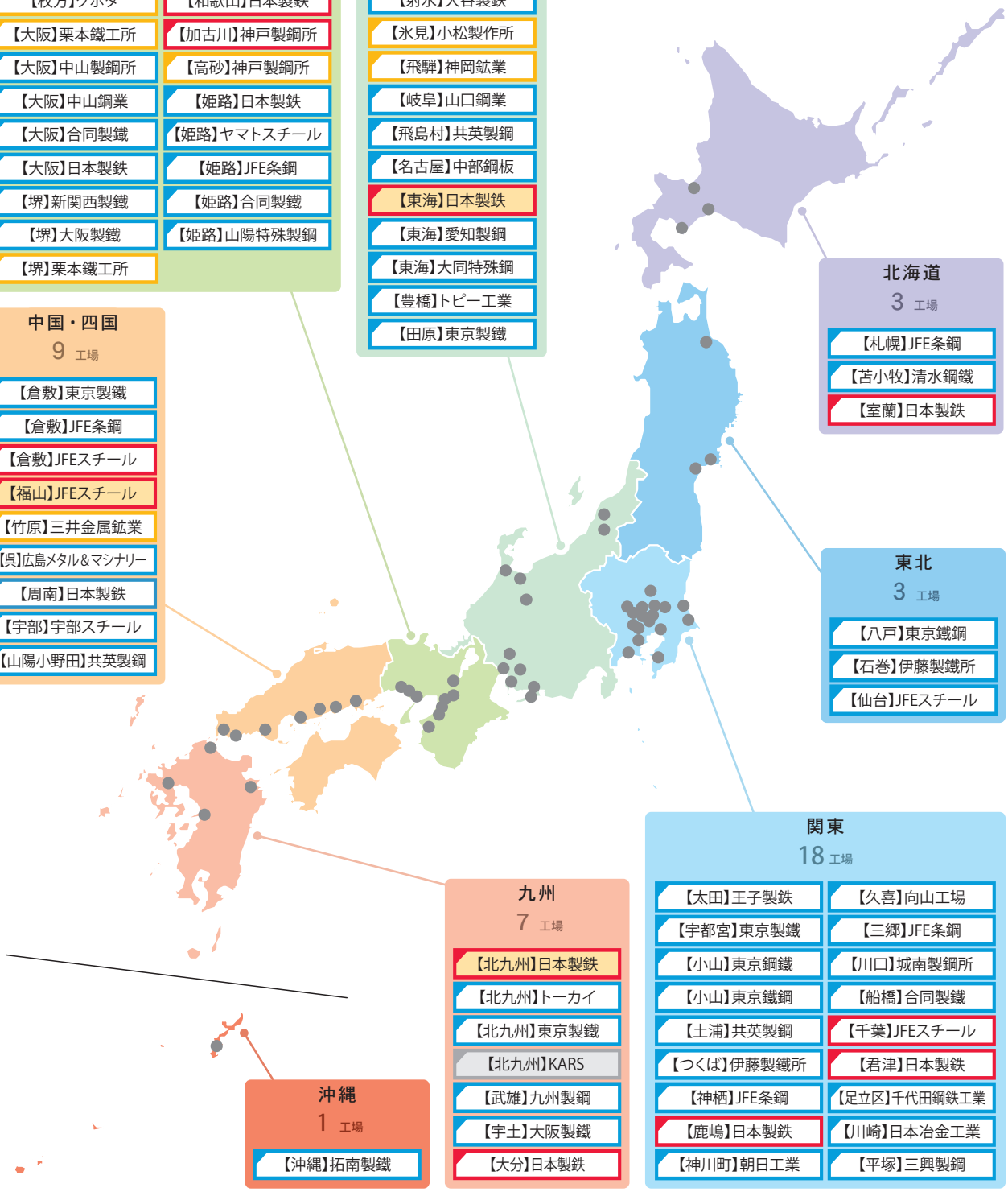
全国計
75
工場

- 高炉工場……8
- 電炉工場……55
- 缶用鋼板製造工場 …3 ― 3 工場でスチール缶用鋼板が製造されています
- 鋳物工場等 …… 7
- ペレット工場 …… 2

■ これらの製鉄工場の多くでスチール缶がリサイクルされています

■ 効率よくリサイクルするために、地域ごとに最寄の工場で再生製品がつくられています

※スチール缶リサイクル協会調べ
（2025 年7 月現在）



近畿
21 工場

- 【長岡京】大剛
- 【枚方】共英製鋼
- 【枚方】クボタ
- 【大阪】栗本鐵工所
- 【大阪】中山製鋼所
- 【大阪】中山鋼業
- 【大阪】合同製鐵
- 【大阪】日本製鉄
- 【堺】新関西製鐵
- 【堺】大阪製鐵
- 【堺】栗本鐵工所
- 【岸和田】岸和田製鋼
- 【和歌山】日鉄スチール
- 【和歌山】日本製鉄
- 【加古川】神戸製鋼所
- 【高砂】神戸製鋼所
- 【姫路】日本製鉄
- 【姫路】ヤマトスチール
- 【姫路】JFE条鋼
- 【姫路】合同製鐵
- 【姫路】山陽特殊製鋼

中部
13 工場

- 【燕】三星金属工業
- 【長岡】北越メタル
- 【射水】大谷製鉄
- 【氷見】小松製作所
- 【飛騨】神岡鉱業
- 【岐阜】山口鋼業
- 【飛島村】共英製鋼
- 【名古屋】中部鋼板
- 【東海】日本製鉄
- 【東海】愛知製鋼
- 【東海】大同特殊鋼
- 【豊橋】トピー工業
- 【田原】東京製鐵

北海道
3 工場

- 【札幌】JFE条鋼
- 【苫小牧】清水鋼鐵
- 【室蘭】日本製鉄

中国・四国
9 工場

- 【倉敷】東京製鐵
- 【倉敷】JFE条鋼
- 【倉敷】JFEスチール
- 【福山】JFEスチール
- 【竹原】三井金属鉱業
- 【呉】広島メタル&マシナリー
- 【周南】日本製鉄
- 【宇部】宇部スチール
- 【山陽小野田】共英製鋼

東北
3 工場

- 【八戸】東京鐵鋼
- 【石巻】伊藤製鐵所
- 【仙台】JFEスチール

関東
18 工場

- 【太田】王子製鉄
- 【宇都宮】東京製鐵
- 【小山】東京鋼鐵
- 【小山】東京鐵鋼
- 【土浦】共英製鋼
- 【つくば】伊藤製鐵所
- 【神栖】JFE条鋼
- 【鹿嶋】日本製鉄
- 【神川町】朝日工業
- 【久喜】向山工場
- 【三郷】JFE条鋼
- 【川口】城南製鋼所
- 【船橋】合同製鐵
- 【千葉】JFEスチール
- 【君津】日本製鉄
- 【足立区】千代田鋼鉄工業
- 【川崎】日本冶金工業
- 【平塚】三興製鋼

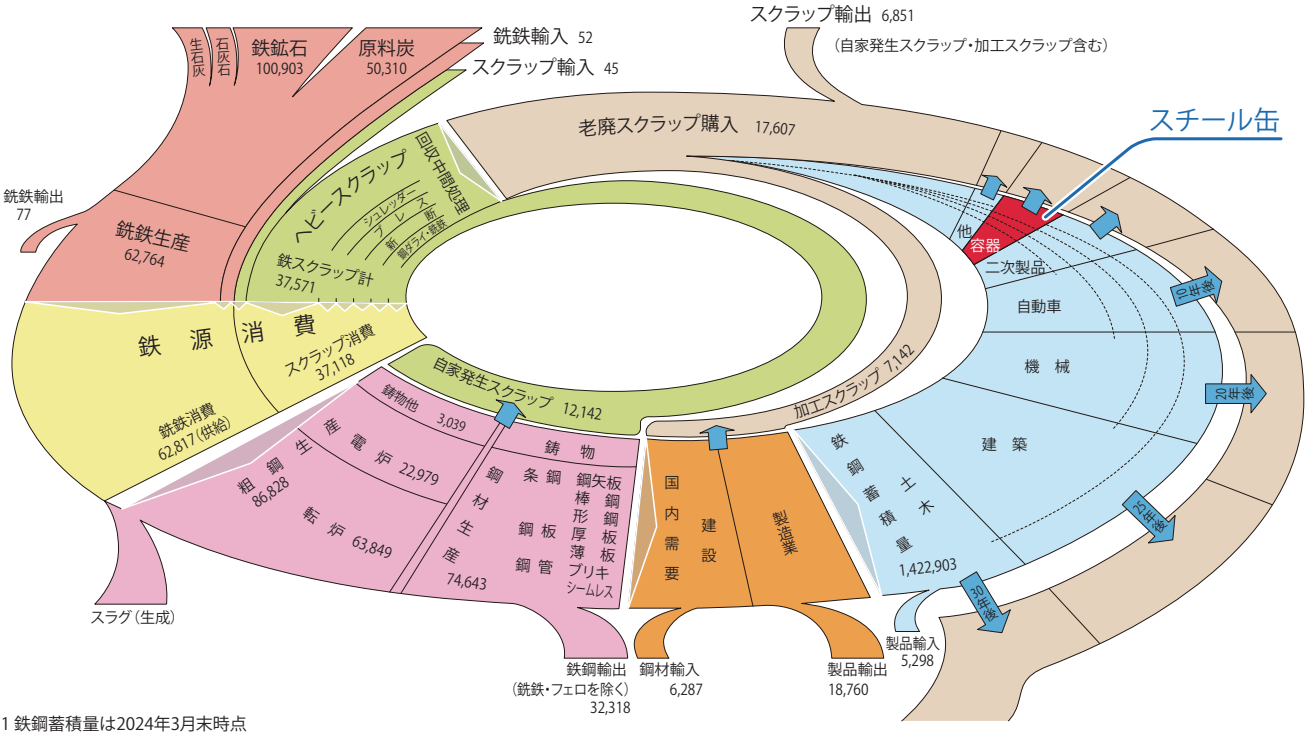
九州
7 工場

- 【北九州】日本製鉄
- 【北九州】トーカイ
- 【北九州】東京製鐵
- 【北九州】KARS
- 【武雄】九州製鋼
- 【宇土】大阪製鐵
- 【大分】日本製鉄

沖縄
1 工場

- 【沖縄】拓南製鐵

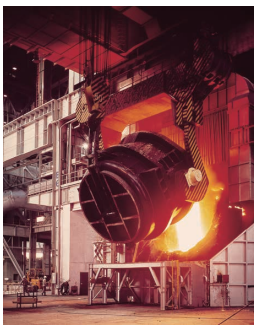
日本の鉄鋼循環図（2023年度）（千t/年）



※1 鉄鋼蓄積量は2024年3月末時点
※2 鋼材輸出入、鉄鋼輸出入データは、財務省「貿易統計」、
　およびクォータリーてつげんVol.103「2023年度末の鉄鋼蓄積量（推計）」図表4
※3 銑鉄需給・鉄スクラップ需給は、鉄源年報第35号（2024）第Ⅱ-1-②表
※4 鉄鉱石は消費量統計調査廃止（2004年１月）により日本鉄鋼連盟「鉄鋼統計要覧」の鉄鉱石輸入量を記載。
　原料炭は日本鉄鋼連盟「鉄鋼統計要覧」の鉄鋼業の原料炭国別輸入合計

出所：（一社）日本鉄源協会

スチール缶は、様々な鉄製品に生まれ変わる、リサイクルの優等生です。



スチール缶リサイクル協会の概要

設　立　目　的

使用済みスチール缶の散乱防止対策及び資源としての再利用について研究し、社会に貢献する事を目的とする任意団体。資源化対策、美化・散乱対策、PR 活動を実施。

設　立

昭和48年（1973年）4月17日

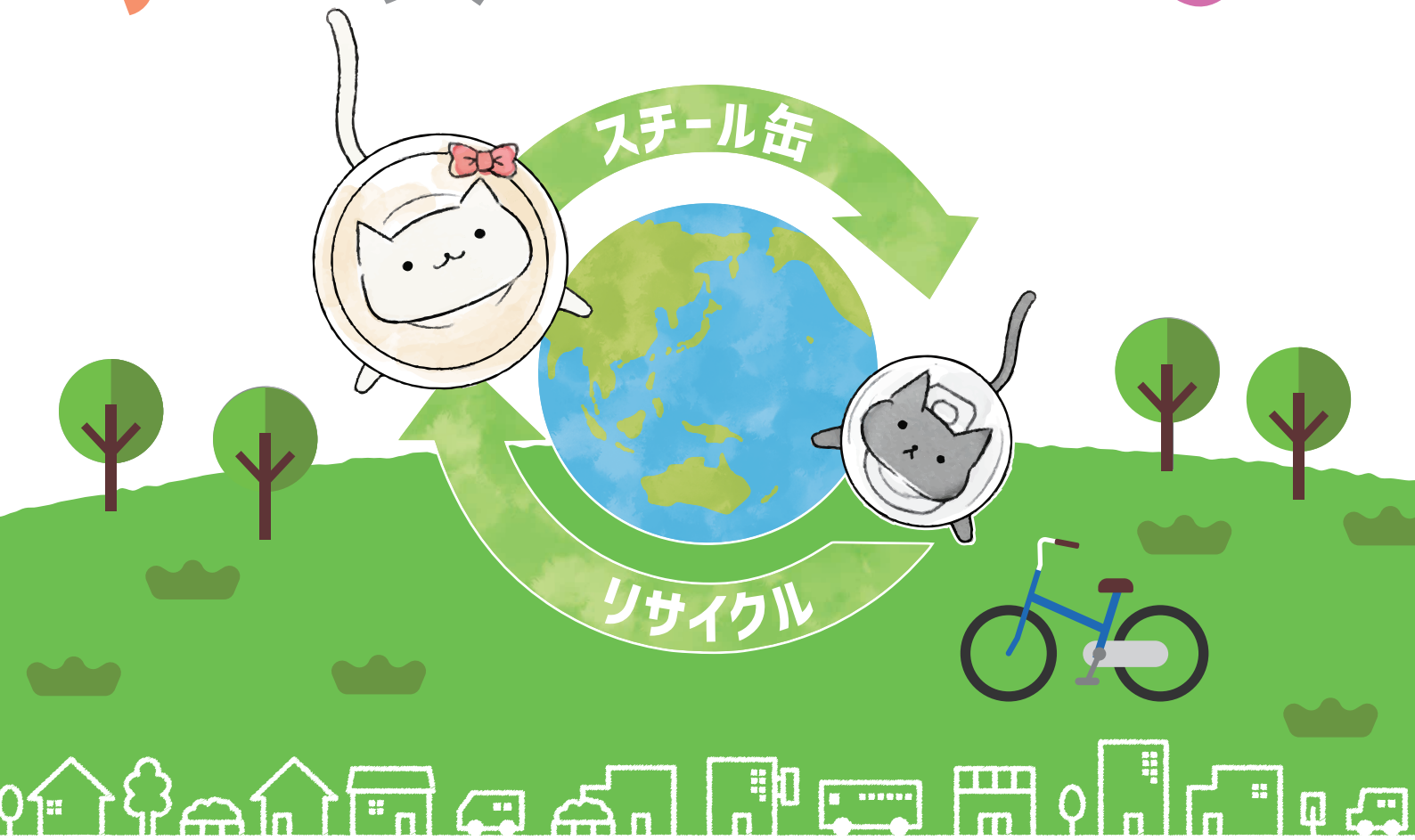
代　表　者

理事長　……　廣瀬　孝　（日本製鉄（株）代表取締役副社長）
副理事長　……　倉持　隆志（東洋製罐（株）執行役員品質保証機能担当）
副理事長　……　荻島　和裕（大和製罐（株）常務取締役）
専務理事　……　高橋　宏郁

会　員　会　社　（12 社）

鉄鋼メーカー …	日本製鉄（株）	JFEスチール（株）	東洋鋼鈑（株）
製缶メーカー …	東洋製罐（株）	大和製罐（株）	北海製罐（株）
商社　……	三井物産スチール（株）	伊藤忠丸紅鉄鋼（株）	（株）メタルワン
	JFE商事（株）	日鉄物産（株）	東罐商事（株）

使うほど地球にやさしいスチール缶



スチール缶リサイクル年次レポート 2025

発行：2025年10月

スチール缶リサイクル協会

〒101-0054
東京都千代田区神田錦町三丁目7番1号
興和一橋ビル1階
TEL.03-5577-2241
FAX.03-5577-2242
URL：https://steelcan.jp/

編集：(株)ダイナックス都市環境研究所　https://dynax-eco.com/
デザイン・DTP：安養寺ヒサノリ

スチール缶は、鉄製品なら
何にでも何度でもリサイクルできる
環境にやさしい容器です。

リデュース　リユース　リサイクル